



拾玉

勘者御伽雙紙

上

特
= 遠 2
993
1



勅老御伽雙紙序

其乃書とほれくれと御多ひま
傳人算問或と公りうかひ
捷速の術秘公のなる書とあり

一が時ありて去人の惑るまあり

今持よりあつて勅老御伽雙紙と

御伽雙紙

明治七年
五月
十日



拾玉
勅者御伽雙紙
全三冊

号しとあるは子のとて括びとあり
んる人け書よりとほきいあぶなるぞ
何に記より係るよしとらざらんや

時子寛保三年亥の正月日

洛陽中根保之丞法船自序



勘者御伽雙紙上目錄

- 一 小町算乃事 ニケ條
- 二 一人乃年敷を基ふて二夜かぞへせて知る事
- 三 一人乃生年の十二支と知る事
- 四 同十干を知る事
- 五 手にく人の十二支と知る事
- 六 同十干を知る事
- 七 人の生年の六つと知る事

御伽雙紙

八 十子たしむるの事

九 さつさ立たての事

十 同つと三とにまらるる事

十一 同二と三とにまらるる事

十二 組くみりけと云いふ事まの事ま又また流ながるる事ま

十三 薬やく師しぎ人の事

十四 同三角ふちちるる事

十五 同五角ふちちるる事

十六 布ぬの盗ぬす人ひと知しるる事ま 三さんヶ條

十七 流ながるる事ま

十八 裁さ合あ物ものの事ま 十じゅうヶ條

十九 百ひゃく又また減げんといふ事ま

二十 又また二に百ひゃく又また減げんの事ま

廿一 又また六ろく又また三さん減げんの事ま

廿二 賞しょう拍ぱく後ご救きうふふととぬぬるる事ま

廿三 奇き偶ぐの事ま

九四 奇妙希代の事

九五 龜乃うらなひの事

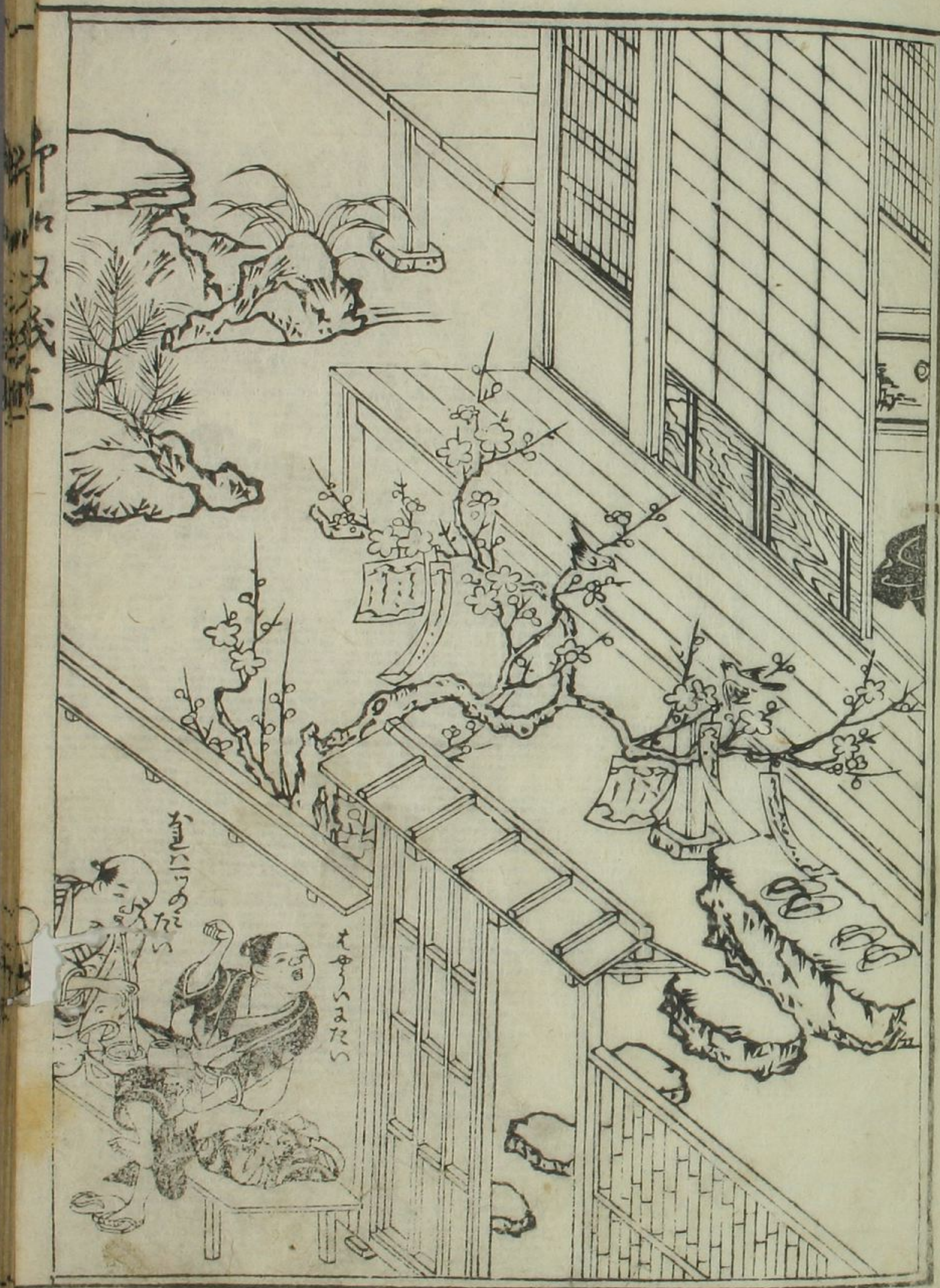
勤者清伽雙紙と目錄終

勤者清伽雙紙と

洛陽中根保く忠治舳編集

一 小町兼乃事 二ヶ條

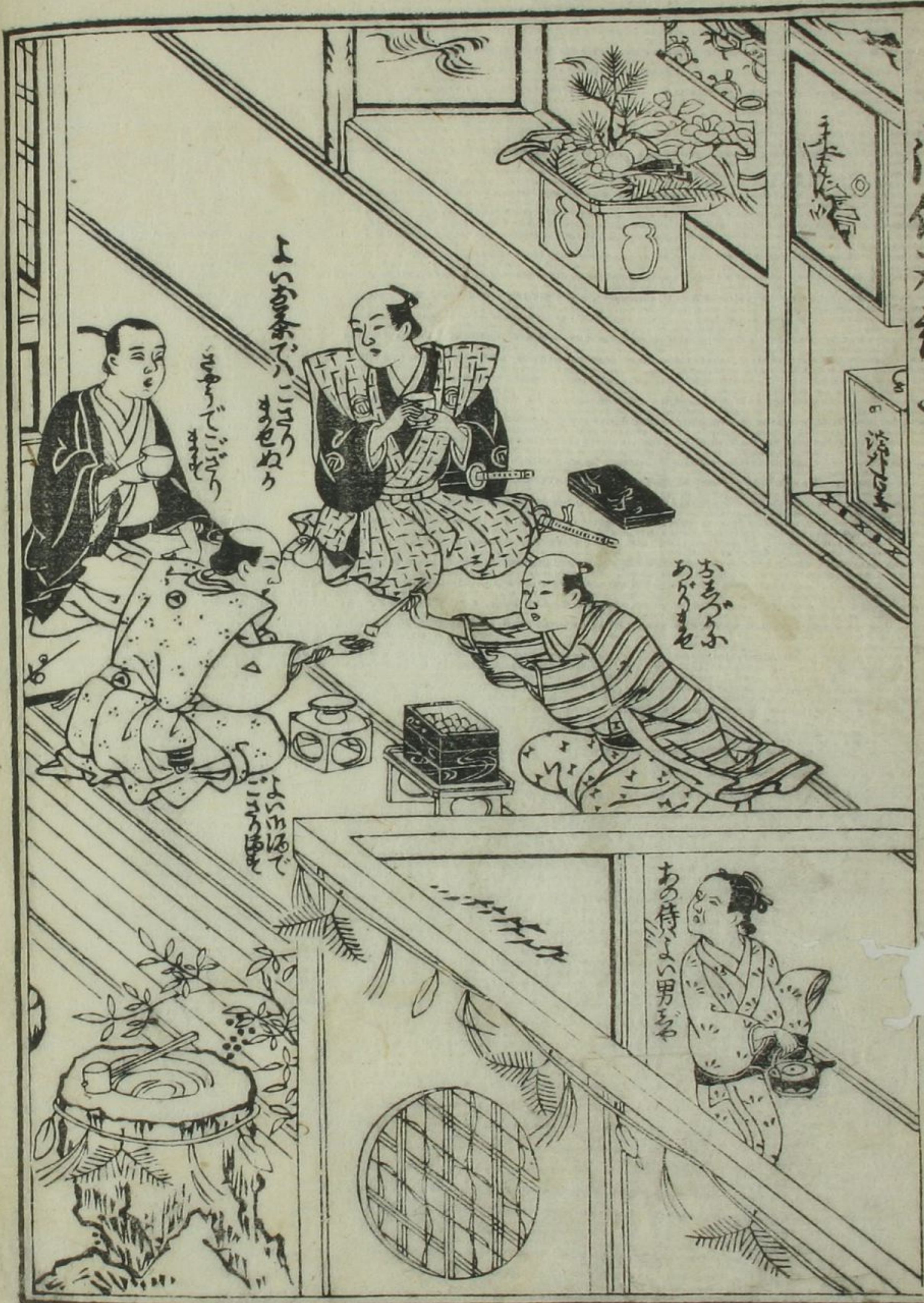
と記とある	松の尻とらと	春さきい	今いと志母の
いろまらり	免あけとと	うふ	衆とらうて
とらもや	開とらあつる	梅枝り	ねうはあつら
うひまの	えんはらと人の	やうきを	花うらあつふ
ある人と	あさねうふ	友とらの	とらう甲人が
とらばきて	いつとらうらぬ	とこあつの	うとせけうと
やどとらうて	いあし人志	あつと成	うらあつて



御
又
紙
上

お
た
た
い

お
た
た
い



御
又
紙
上

お
た
た
い

お
た
た
い

あ
の
待
た
い
男
子

短志やふ	くさほらねる	あまは	屋敷ことこの葉ふ
くらまげと	何思おとらぬ	とろ人乃	詠めよあうぬ
せんごいや	露と龜と志	うりつけぬ	まづとらあげて
とらごふ	酒とあめく	とらもふ	なそそぬ中の
たのここと	きんたさくは	はなめそて	又十をうり乃
ちここの	てしたづえ	おけつ紙	さいまひあいと
たのこけ	まざいよあひの	めづりて	下女ころろ紙
あづさゆ	ひくよあまの	たふ意を	いとらまげふ
くらまが	げふ業卒志	御どげん	とこのころろ
ひさうて	げぢめをほけ	とくとせふ	ひとせうらぬ

江浦髪	まれころし	おもぐげと	いやといふた
人こわ	秘人まびつ	同音り	ゆきざしそぞ
わらひけ	中よひころい	それまの	九十九あそく
あひあ	あまよひころの	御人あう	率候小町志
そ中一	一夜二夜や	三夜四夜	又六いあうで
七夜八夜	九夜十夜と	うさひけ	さそまらふ
くさどけら	九十九夜よは	いごそ	さるとやん
そとね紙	さう紙あそ	あうなれ	さその人志
あそい	さいほらうり	このころろ	ころろ紙いそあ
今ぞま	吾輩の人志	中くま	とらよこころふ

あらずそ	いとちちたも	いふやうも	らどめよんじ
そくど乃	一二三四と	まの後乃	七八九十
前後あり	まのいくを	見あひする	そてそてそ
かくどり	つと七とや	二と八と	三と九ととや
四と十と	そのく別り	ふけありせ	四は係く
九十あり	そてまのうまの	ことわざ	とどりて文字の
四の四	ち夜の七	九の夜の	九のつとち
合まは	二十とあるふ	九十とば	くりい進はく
百十と	ありしそち	六と六と	ぬけーとと
引と	跡をみるち	九十九と	あると答へて

あつぎげが
 手と打は
 けあひの
 このまを
 又解し

せいのひとく
 まのしとが
 むのちとふ
 筆よのちて
 うますてふり

かんよたえ
 わつたりて
 たちさりぎ
 うますてふり

巻のまといと
 むはくけ
 まうだも
 うますてふり

前 後

- 一 七の七の十六の三十七の四の四の合で九十九
- 二 八の八の十六の七の九の合で二十あり
- 三 九の九の十八の六の六のぬけと
- 四 十の十の二十の九の九の合で九十九とありなり

又いさく算乃まらくまらと句



一の十〇九十八〇三二二十四〇四二二十八〇五三十二
合せて百十ありけ内五と六とありき数と
はうひたらゆへ合せて十一残されぬ餘即九十
九となるあり

二 人乃年数を基とて二なるがごとくして

先初りぬ数十一先の人よ後して年の数強くうく
かぞへさせてさうらむるといふ次よ又九う後してうく
うくさせてさうらむるといふと九と又十九と答ふるなり
法曰十一の時めあまり一つを又十四の算用ありて三百
七十八と又九つの時のあまり一つと又十四の算用ふ
して百七十六と又二口合又百又十四と又九と九十九は
ひらりなりと引きてはさうらむと又十九と得る也又百引ては
一つ入いく交とればしてはさうらむといふと九と又十九と
いはしめても二方ありありといひ答ふる方をかき
用かてあつ法のぶとくして答ふる也又又方は余

神代文

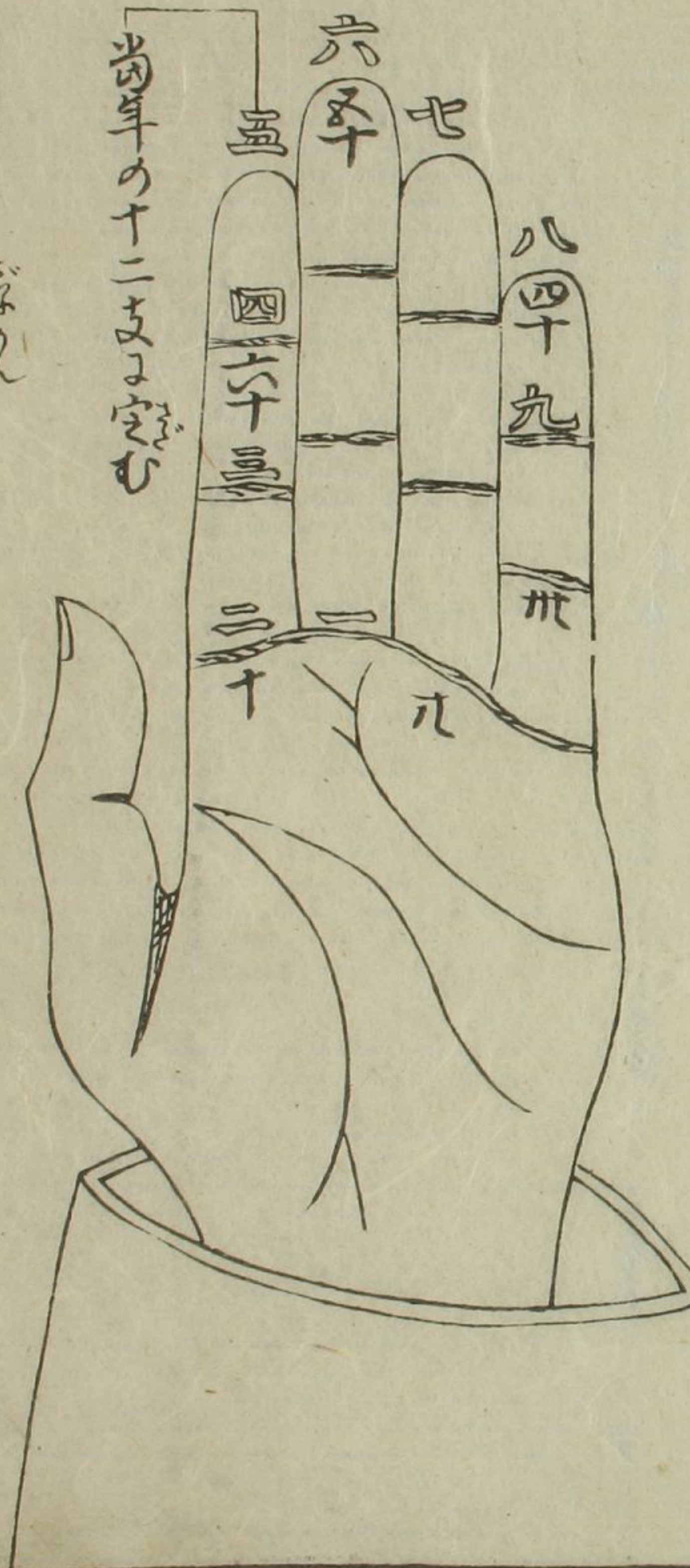
尚年癸卯とありあつた癸卯卯丙丁戊己とあり目よ
 あつて己亥年とありといふあり

五 手にて人の十二支とある年

たとて尚年亥の手にて二十九歳とあり人生年の十
 二支とあり

法曰手の大とく人指ゆひのりとの筋を十と定め筋
 一つは茶とあり十はとありたといふれり
 通は一二三四五六七八九とありては筋を十と定め筋
 人さゆひのかりと尚年の亥と定められり順は亥
 子丑寅卯辰巳午未とある時分のありて未とあり

又手のひらより逆は亥子丑寅卯辰巳午未と人
 指ゆひのうらにありと取て甲乙丙丁未とあり
 人指ゆひのかりとと定めむるあり



六 同十干をある事

三つの方
○○○○
○○○○
○○○○
○○○○
○○○○
○○○○
○○○○

法曰声教十六よ三をうけて四十八とある内元三十を引除きて
十八と三つよまうて二つの方九つといふ也又元三十の内よて
声教十六を引除きて十四よ三をうけて四十二とあると二つよ
割て二十一と三つの方の教といふを甲

十一 同二と三とふまうる事

たとふを声教三十後して十一声をうけて二つの方六といふべし
あはれといふ

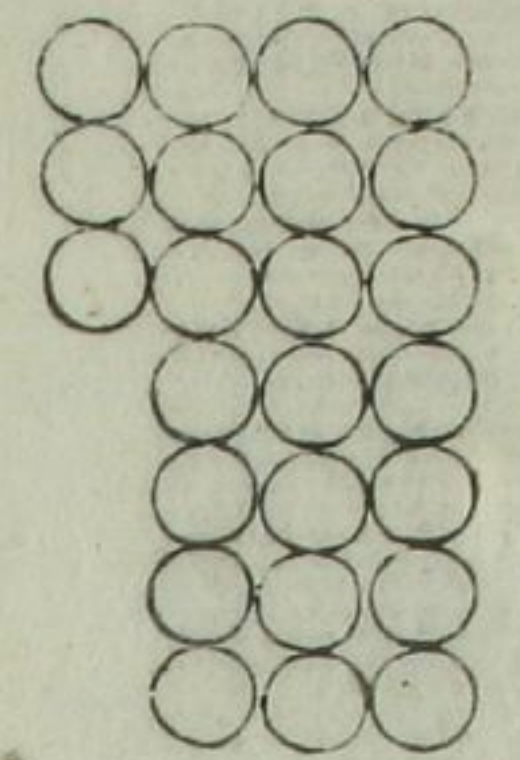
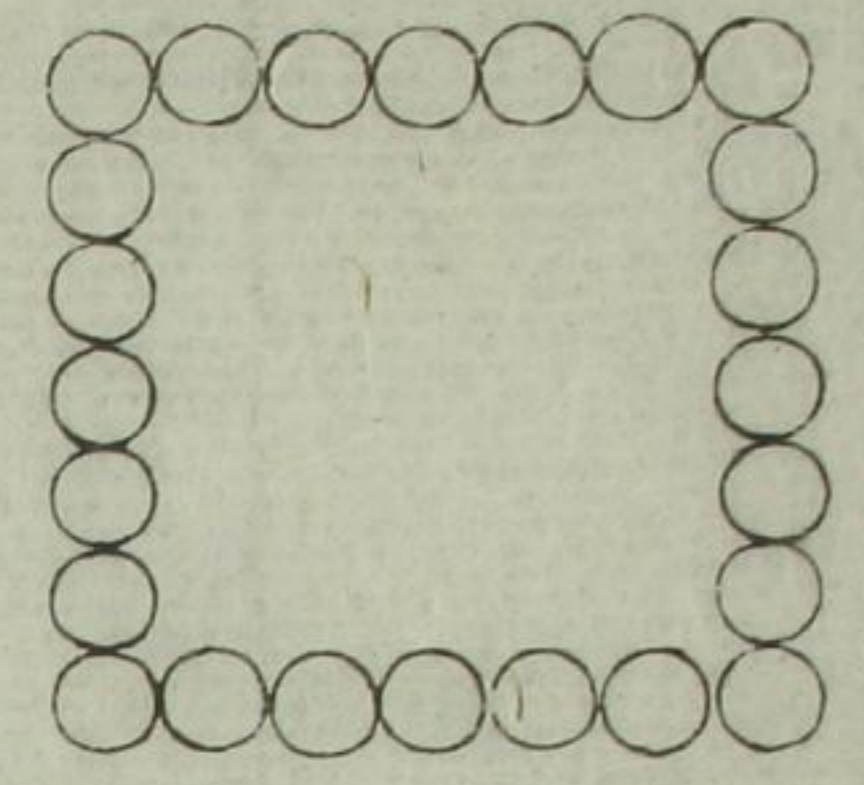
二つの方
○○
○○
○○

三つの方
○○○○
○○○○
○○○○
○○○○
○○○○
○○○○
○○○○

法曰声教よ三をうけて三十三とある内元三十を引除きて
三を倍して二つの方六といふ也又声教を倍して六とあると
元三十の内よを引除きて八よ三をうけて十四とあると二つの方
方といふを甲

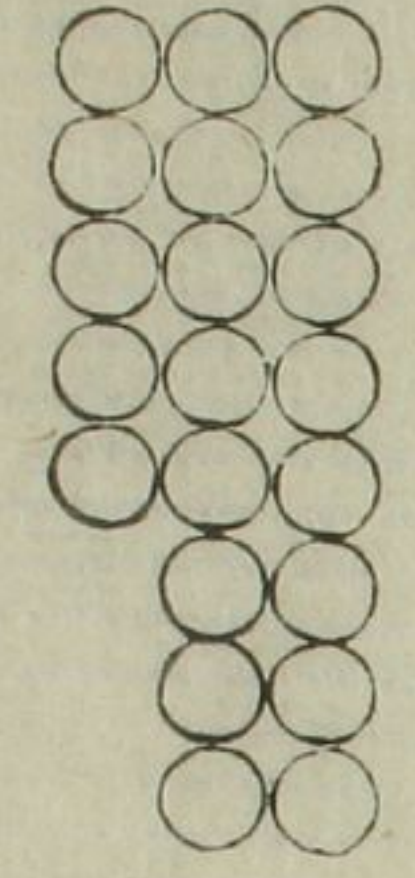
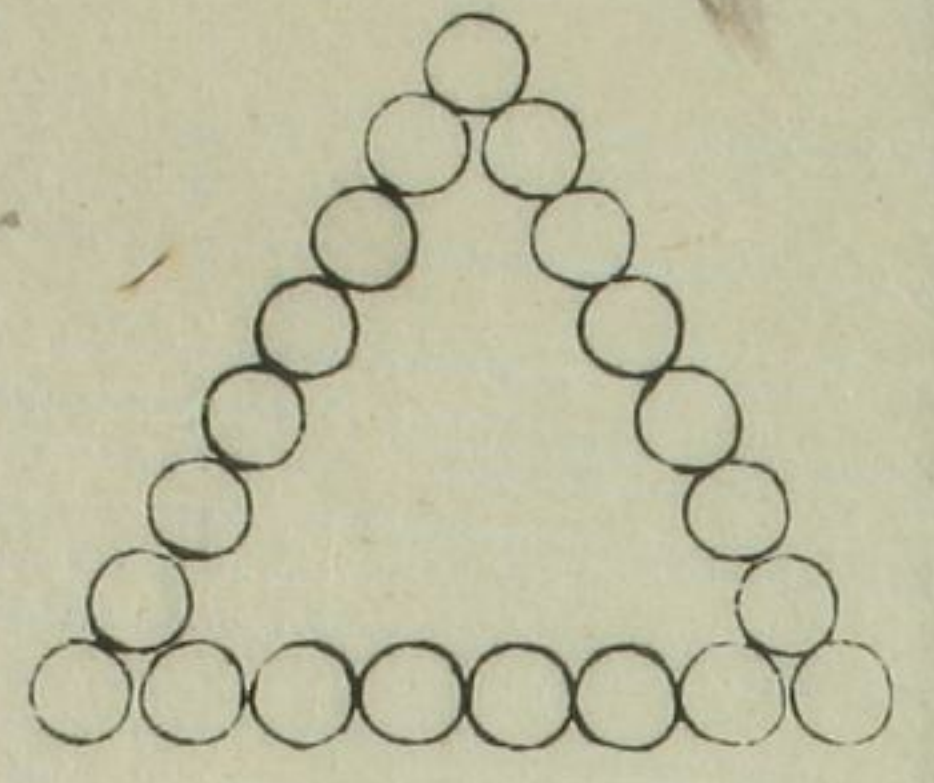
十二 総目けと云算の事又此立といふ

声教いふ程ありて甲教つて幾程とちうぶさせてを総教たといふが
又総といふ事をいふるをわきまてきく板その内を総と云ふ人総
跡の甲総をつよよして下人総と名付させ板を人総の内より



めいけいこの法は板も印程四方にあつて板
 三方をくらげて又たの邊のこも一方よとて
 ちうちう時け板もさちちこつありまうれだ
 惣數二十四と答あり也
 法曰ちこつを四つはの算用して十二を
 板是定法十二を加へて二十四と答あり
 又ちちと云つて十二を四つと答へて塵劫
 記よ右二十といふあやまり也又ちたこつと
 いふ時八つとも答あり

十四 同三角小なるぬり事



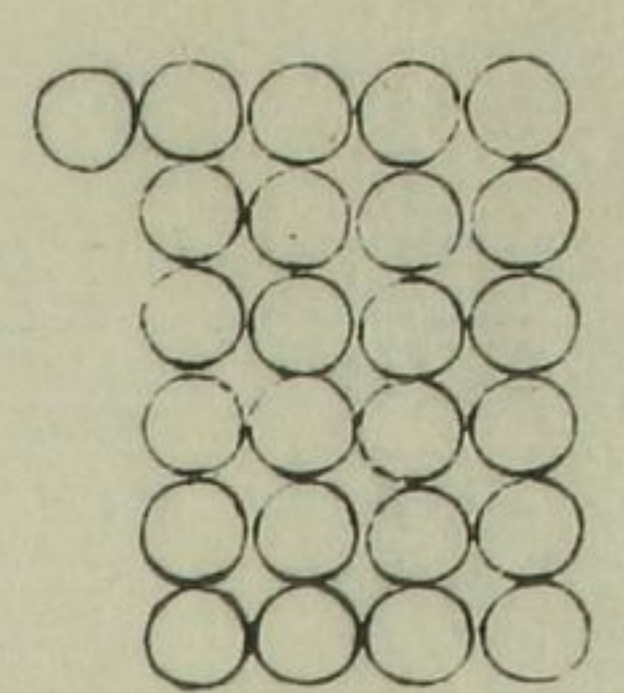
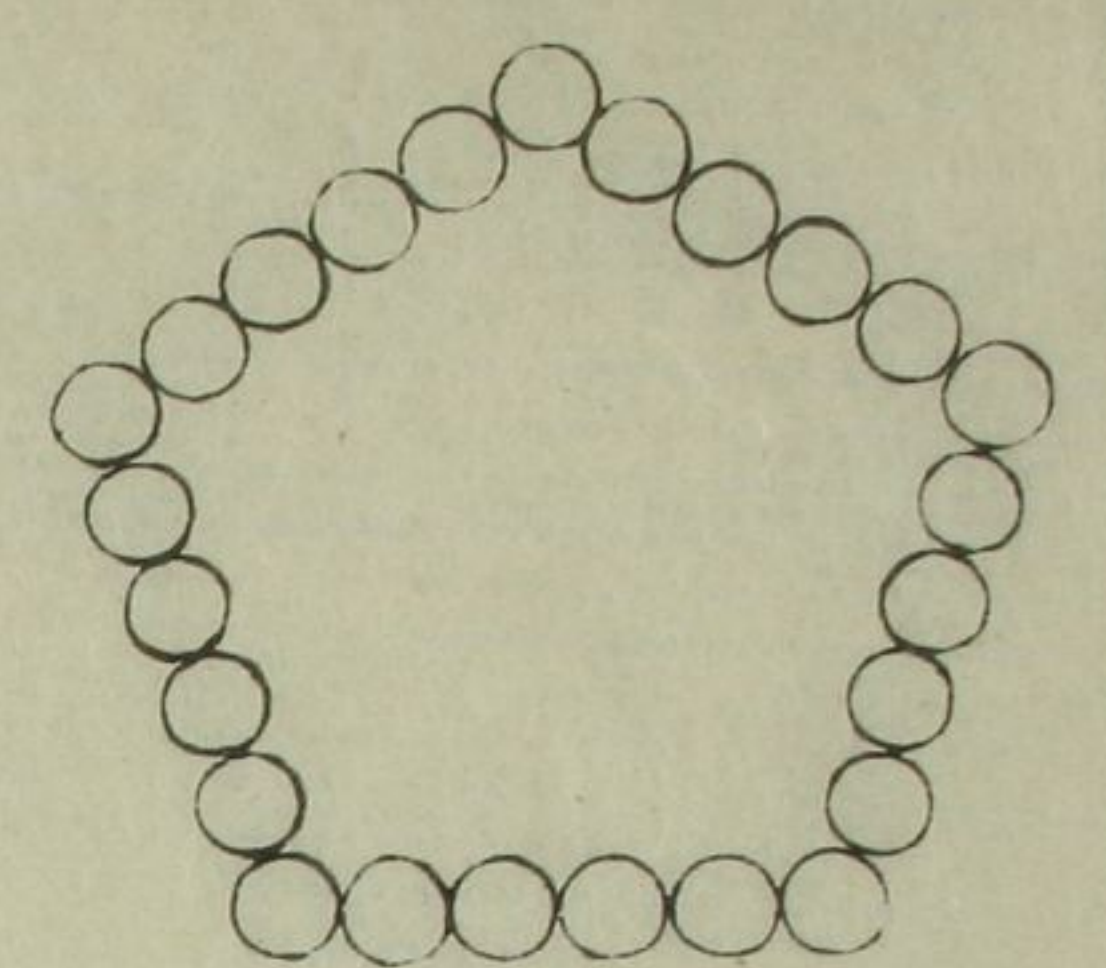
めいけいこの法は板も印程三角にあつて
 板三方をくらげて又たの邊のこも一方よとて
 ちうちう時け板もさちちこつありまうれだ
 惣數二十一と答あり
 法曰ちこつを三つはの算用して
 十又とある是不定法六つを加へて二十一と云也
 又ちちといふ時六つと云へて智慧較ふ
 六十といふを得りちうち又ちこつといふ
 時三つとも云へ

十五 同五角小なるぬり事

神代文紙

十五

是とあると仰るにたゞ一あると仰るに
一つあると仰る 答二十五と云ふ



法曰ち一と二つを合わせたの算用にて又
先不定法二十を加へて二十又といふあり又
なりと云ふ時二十といふなり又一と二つ
又二つとも十といふ一又二つとも二十といふ
いふ一といふ外角よりなるゆゑも不定法の
救を知らぬ角救の内二つと一と角救を
を救と仰る救とす別又救よりかき救をあへて
答より救いりて方て不定け故よかき救と
またある救とまたある救とまたある救と

あるがうたといふ角の時二つと一と角を
十二とある救加ふ救とまたあるがうと

十一 布盗人救ある事 三ヶ條

盗人榜の下に布を盗るを安よ人救も
只七反づりれば又た七反づりれば三反
あるれば盗人榜布救の何程と同

答曰盗人八人 布救六十五反

法曰あるとたうぬと玉合せて八と
七反とあるとたうぬと玉合せて八と
七反とあるとたうぬと玉合せて八と
七反とあるとたうぬと玉合せて八と

みすて反とまると也

又八反づりければ十反たりとせ七反づりければ九反たりとせといふは

答云人救六人 布救三十七反

法曰たうぬ十一の肉たうぬめつとりてはつとんと人救とまると
け救よ後の七反とらむとせ四十二反とぬは肉たうぬめ反とらむ
跡は三十七反と初也

又七反づりければ九反あまう八反うわれば五反あまうといふと

答曰人救六人 布救六十七反

法曰あまう九つの肉あまう三つをりてはつとんと人救とまると
け救よとらむの七反減れば四十二反とらむ是へあまう九反と

つらるるく又十反とまると也

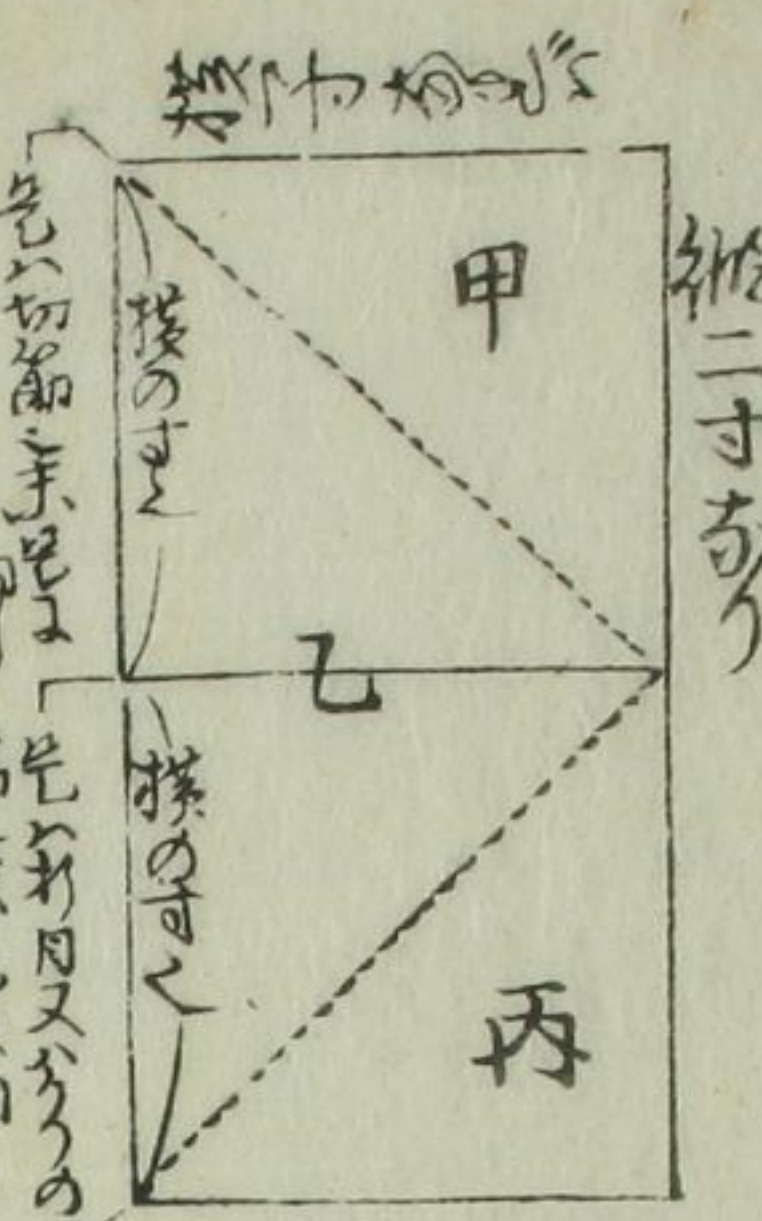
十七 御算といふ事

是二二の散二つをうけてその目の救りどるを入ぬりては
一方とらむへうへうして又その目の救りどるといふとらむの
うへうたる方と又お次牙よあうその目の救り入て板をさいの
目計とらむ惣救をいふたうたといふゆめは九つといふ
板四をうへうとれば五するゆへ三といふ板をぬりては一方と
らむてある時たといふをあうあうたうたといふと入て十八を
さいの目二方のめと今乃二といふとあうて又二といふとあう
は十八をぬりては一方とらむ

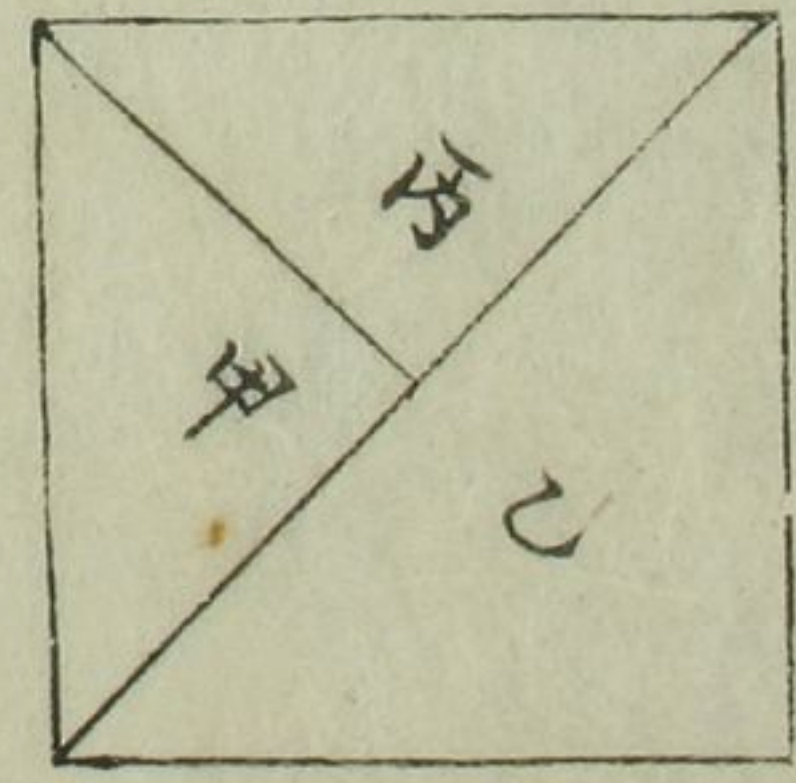
法日又いのみ十一は定法七をくへて十八と云ふも也又又方
ともいふがくしてありける時の後の目よ十四加へて答は

十八 裁合物の事 十四ヶ條

たとひ横一倍を縦よきる紙と四方に糸垂すたりやれ事

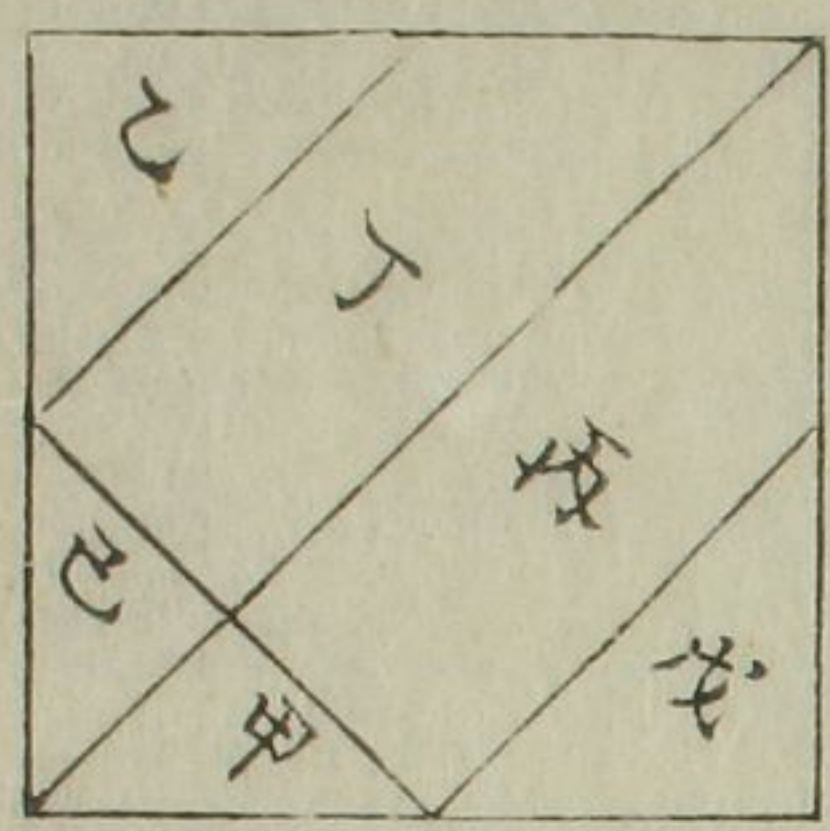


きり此筋より
切て下の邊乃
どくやうゆり

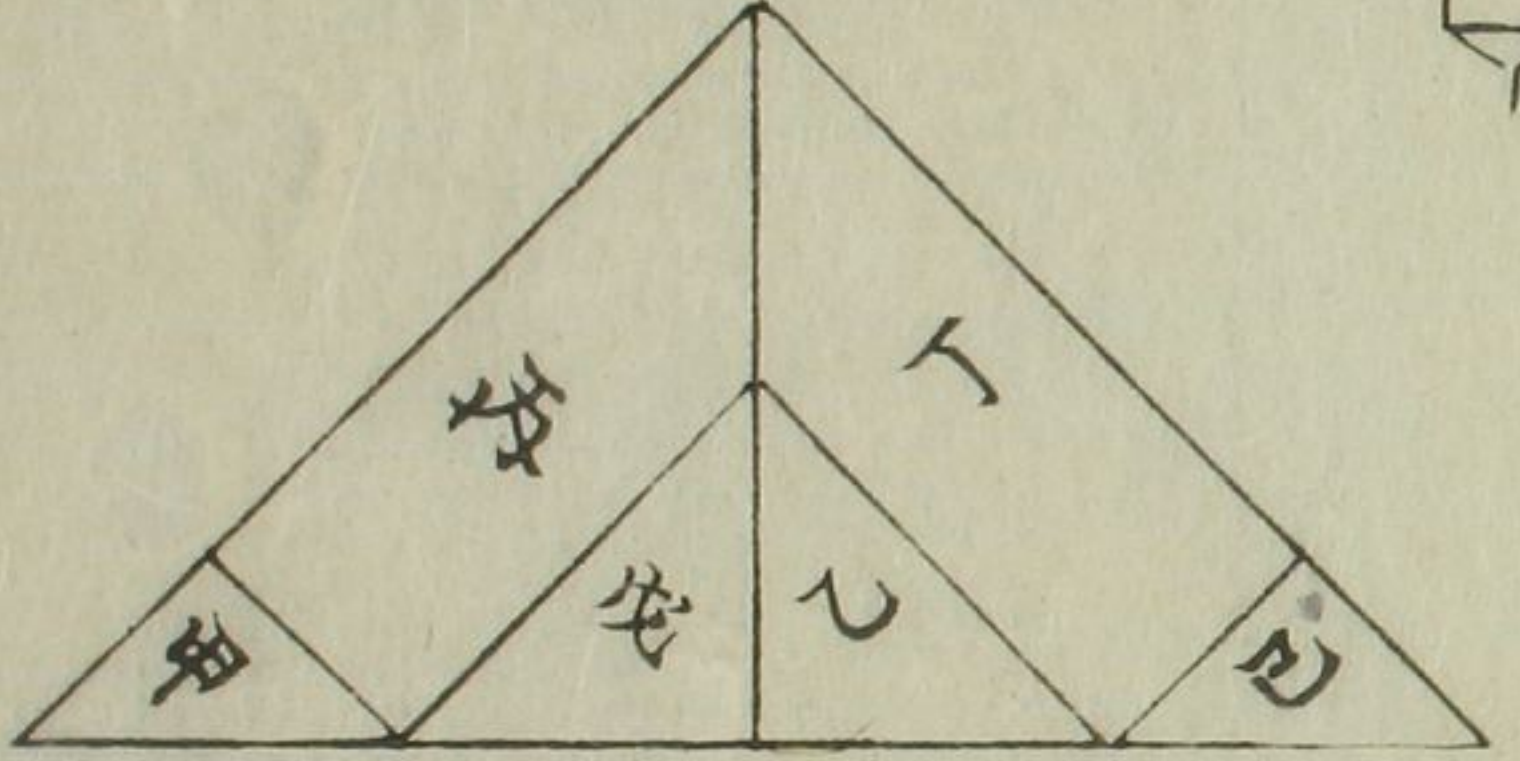


又たの紙をいさよ切ぬるよと切筋よとひかきよと云ふよはぬありひごうめ
くぎぬるよと切筋よとひかきよと云ふよはぬありひごうめ

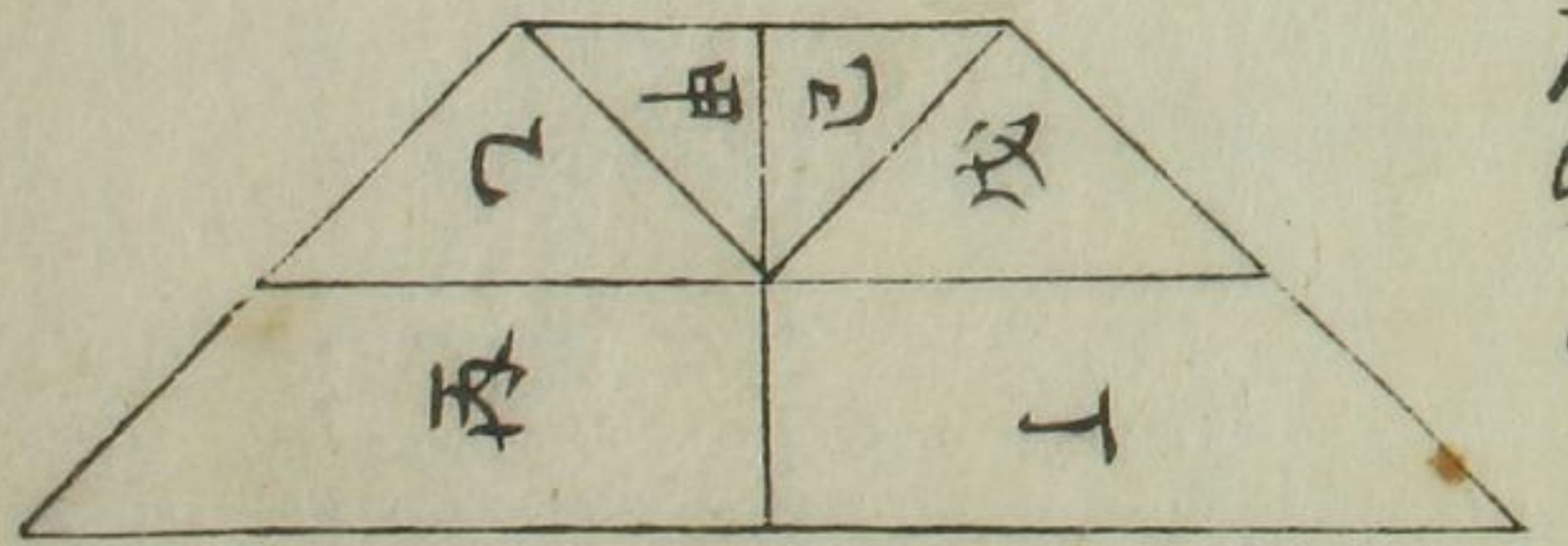
四方の形



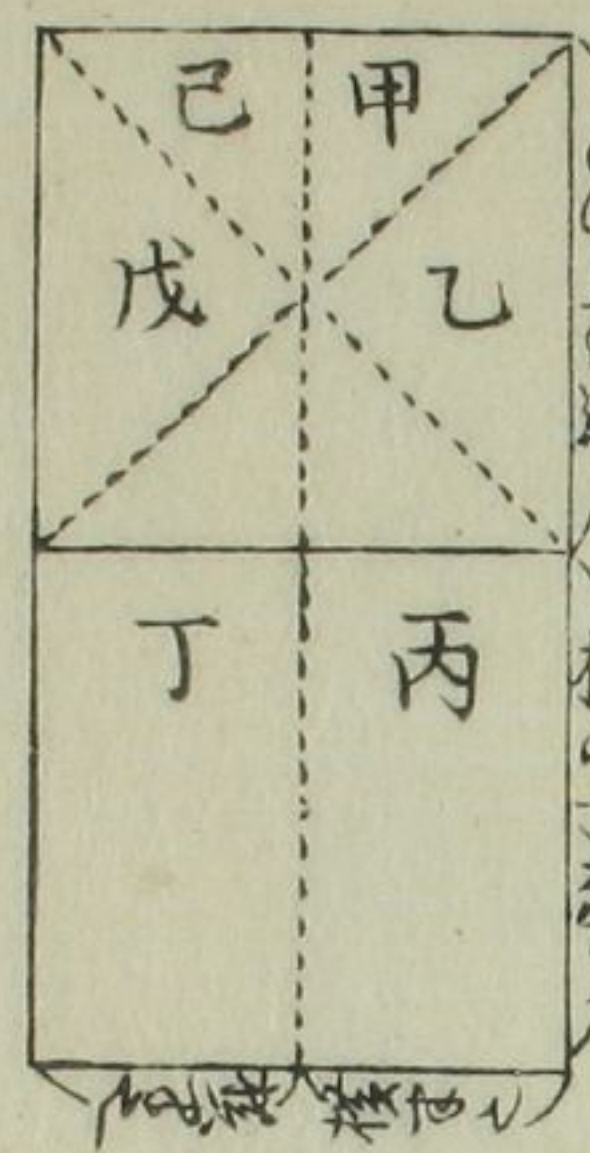
鱗の形



そへての形



いさよ見合せし



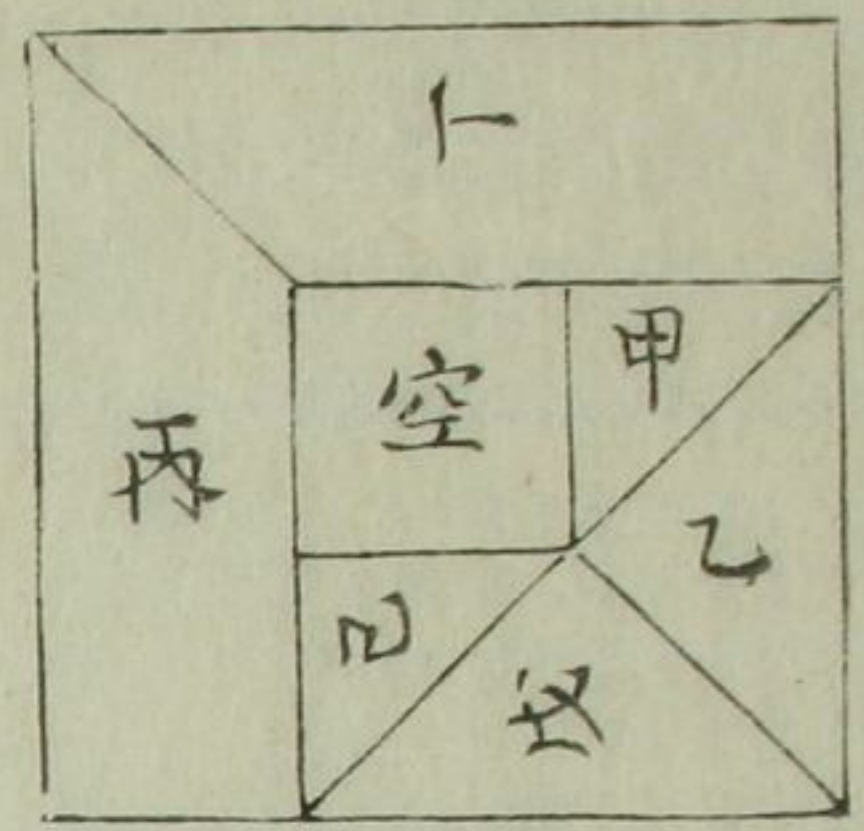
かゝのどくきり此筋より切
いさよ見合せし

紙二寸あり

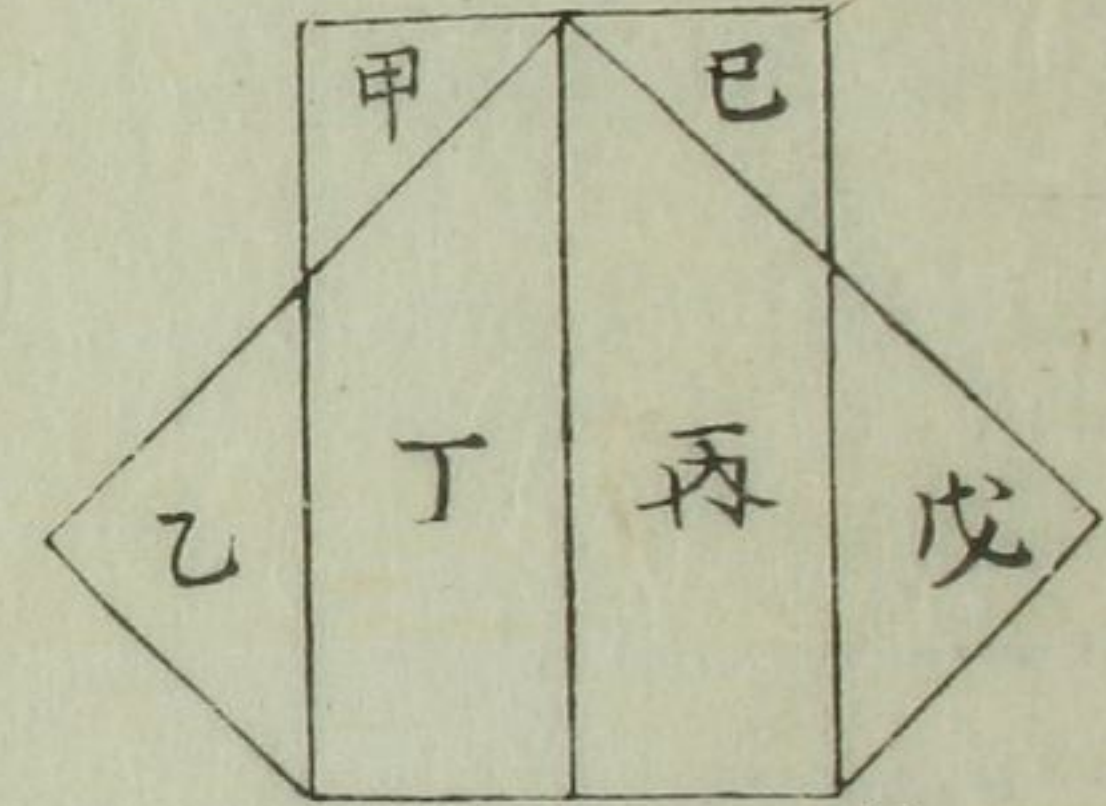
紙二寸あり

海防又紙の

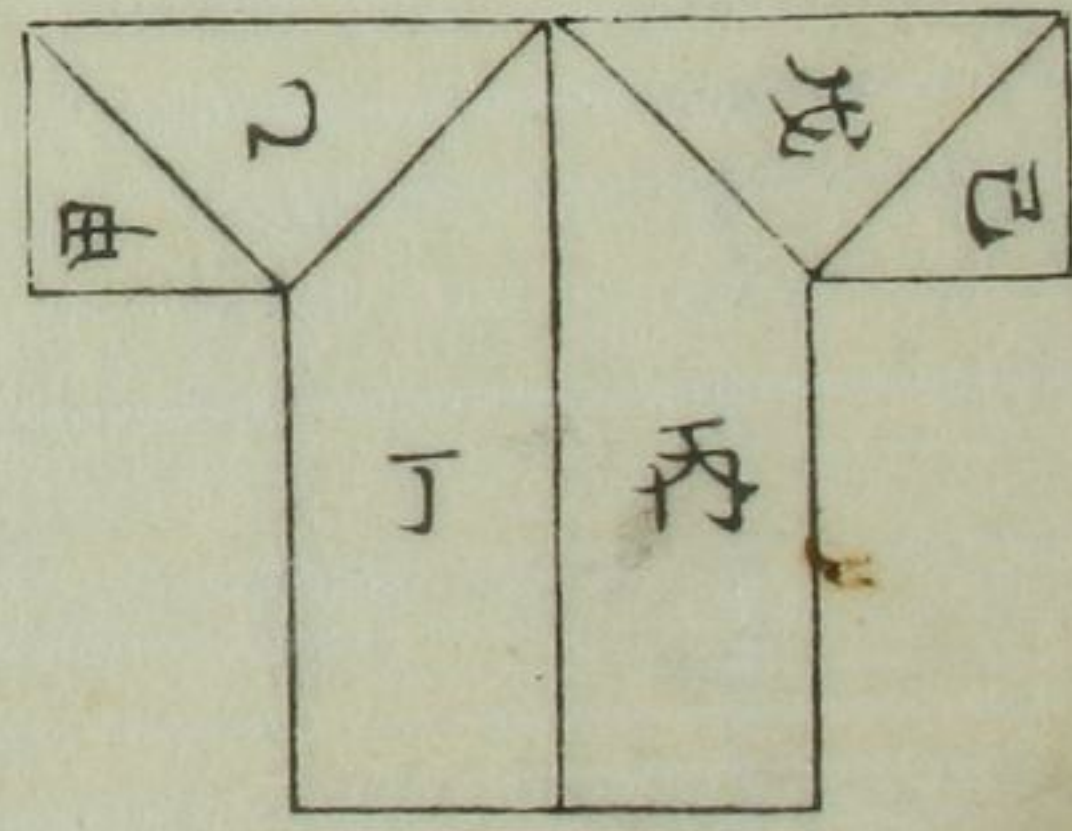
海防のきぬぎく



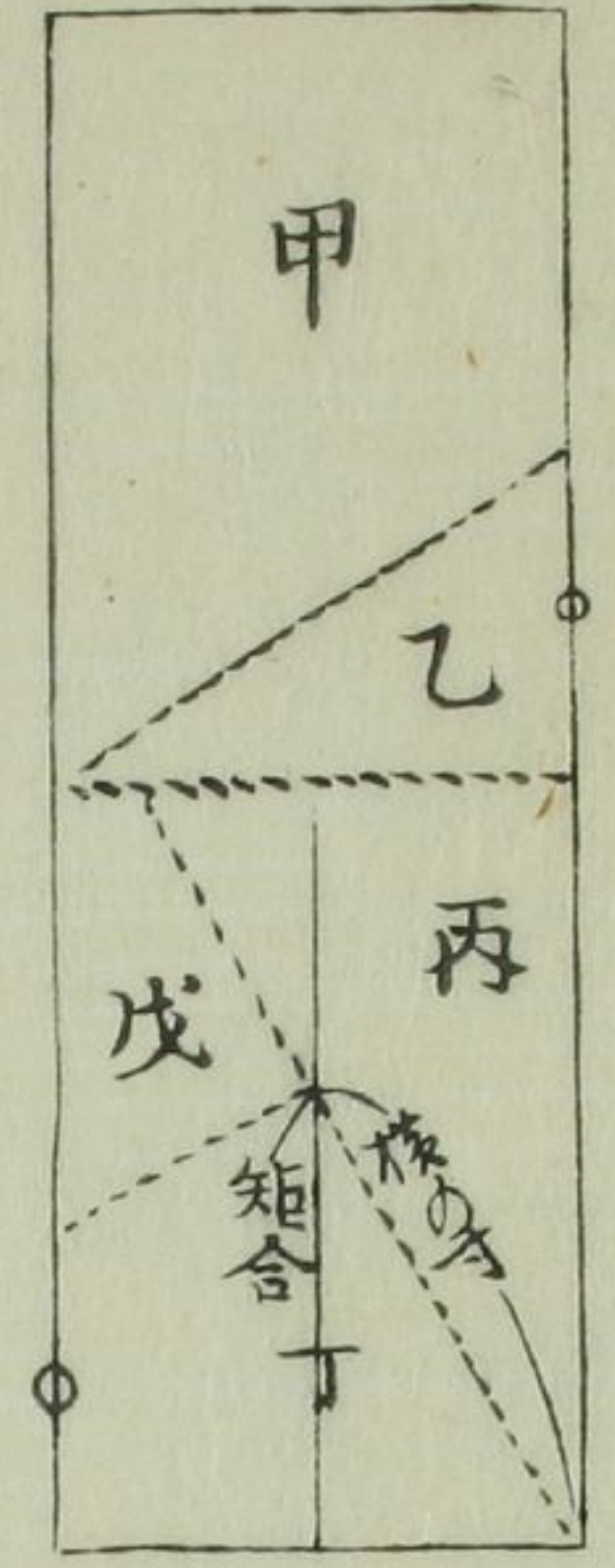
海防の紙切



海防の形雜



たとえば横三増倍を縦よきる紙を西方に有るをすたらやれ奉



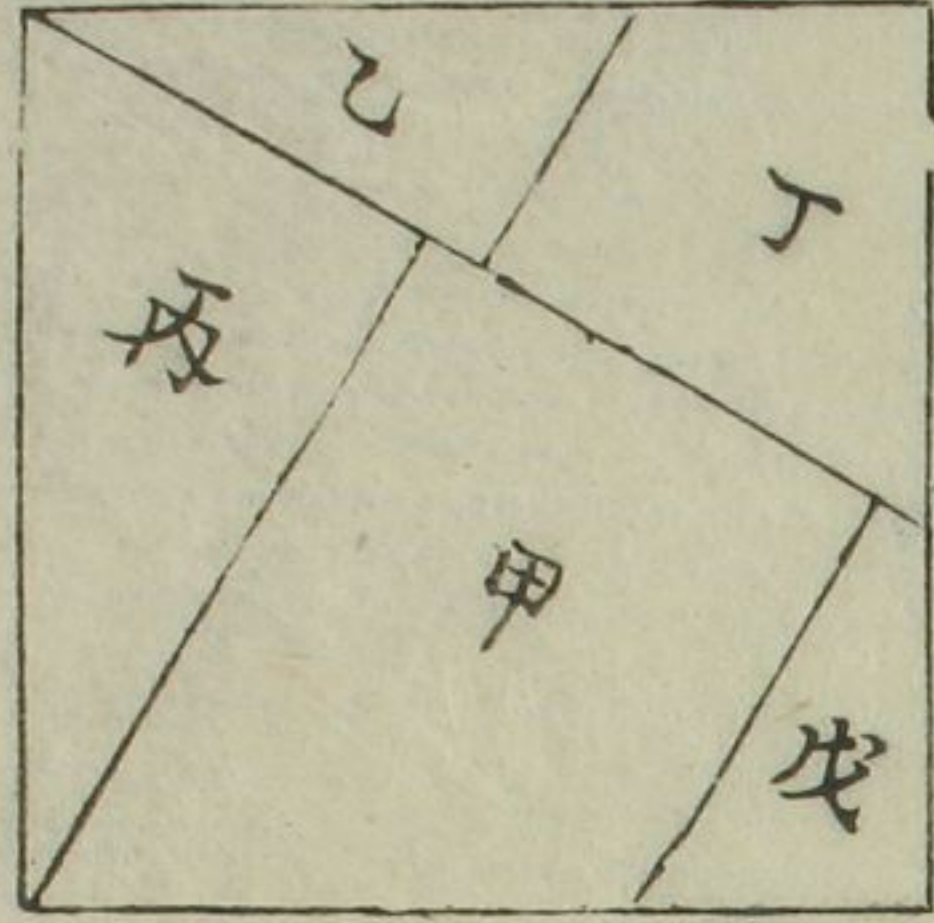
寸とあててそ筋ありよよの方へとたの方へと豊よ合せて

法曰先其申の筋より横よ二つよ

切てそつを又縦よ二つよ折て

そ筋へと下の右乃角へと横の

海防のきぬぎく切あり板下の丸の寸とまうてよの丸の面當て
下のきぬぎく切てたの海防のきぬぎくありぬぎあり

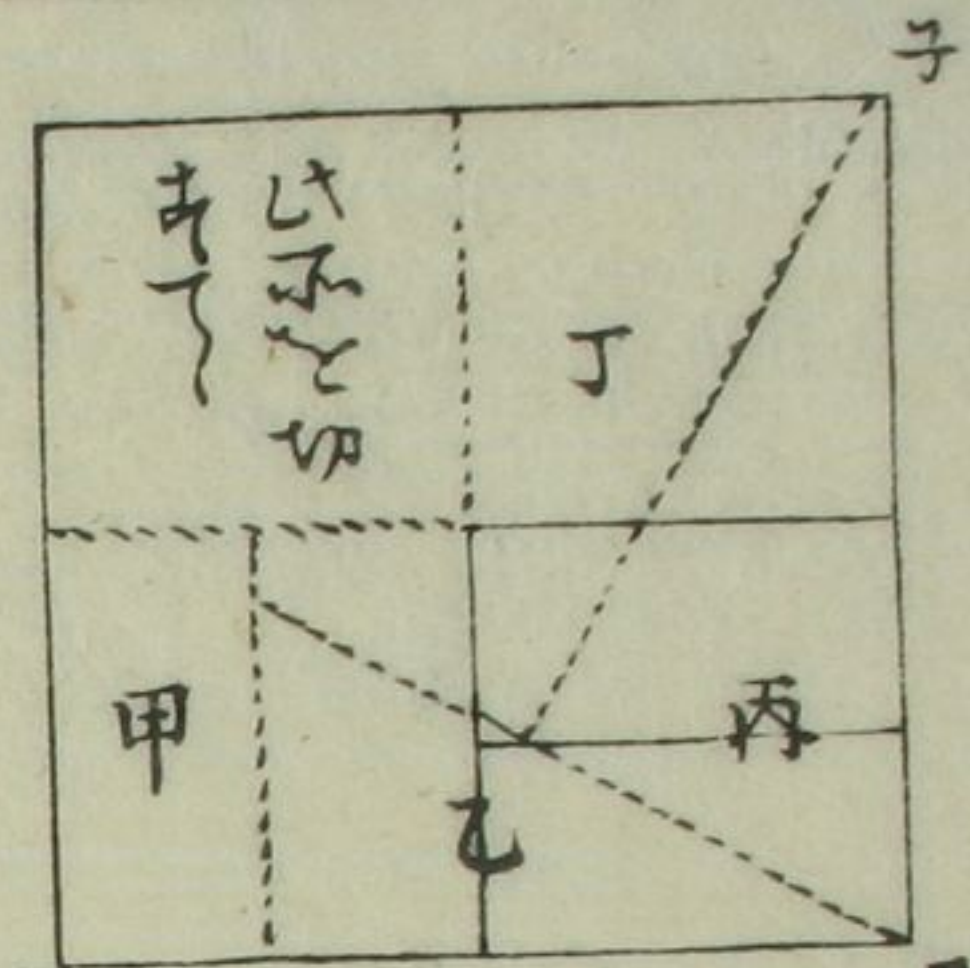


かくのきぬぎくありぬぎあり

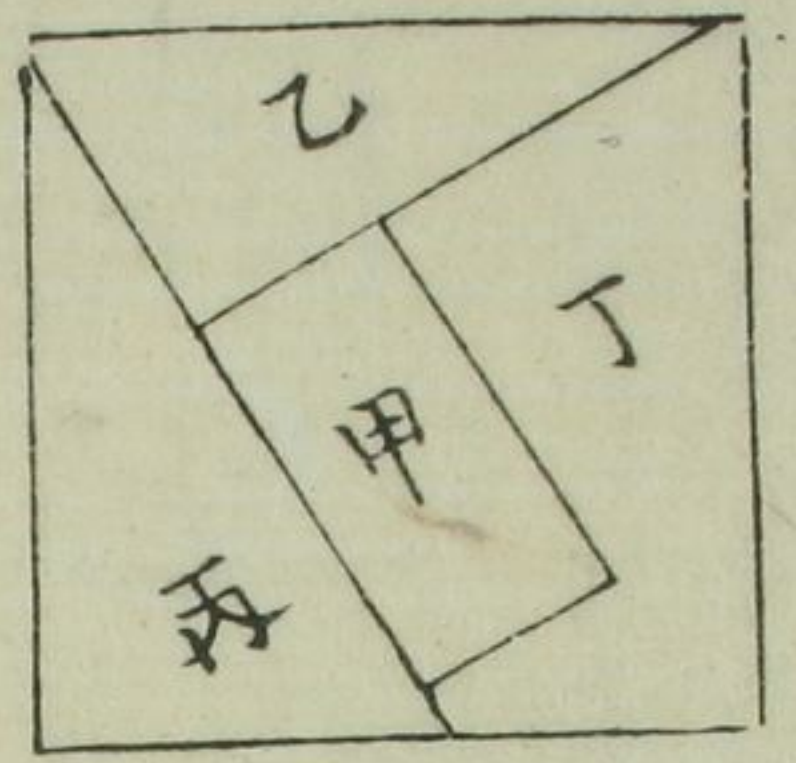
たとへば四方の紙と海防のきぬぎく十文字は折てそつを切すそ
筋を又四方よきるをすたらやれ奉

海防又紙の

竹紙又紙

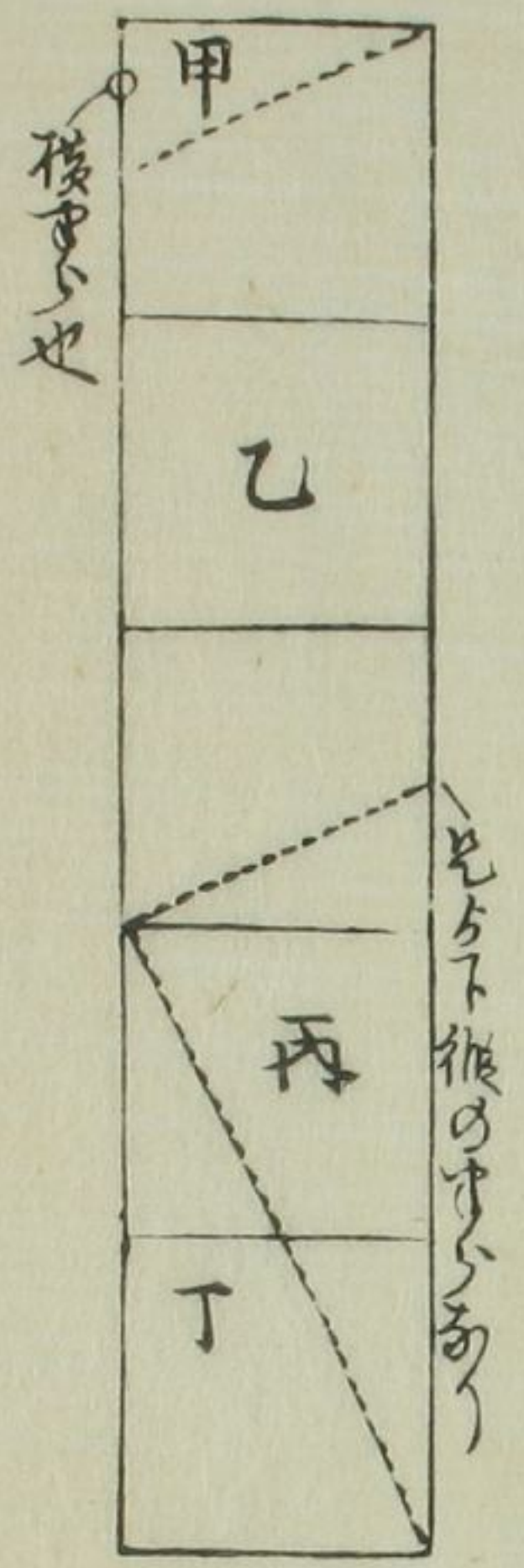


セ法曰セ寅の寸と四のよおて等のこくせん
 甲を切てのけ又子せの寸と四のよおて
 等のこくおめり筋を付てを筋と子せの
 角と三ふ曲尺は合せて等のこく切てたの
 寅等のこくあるなるあり

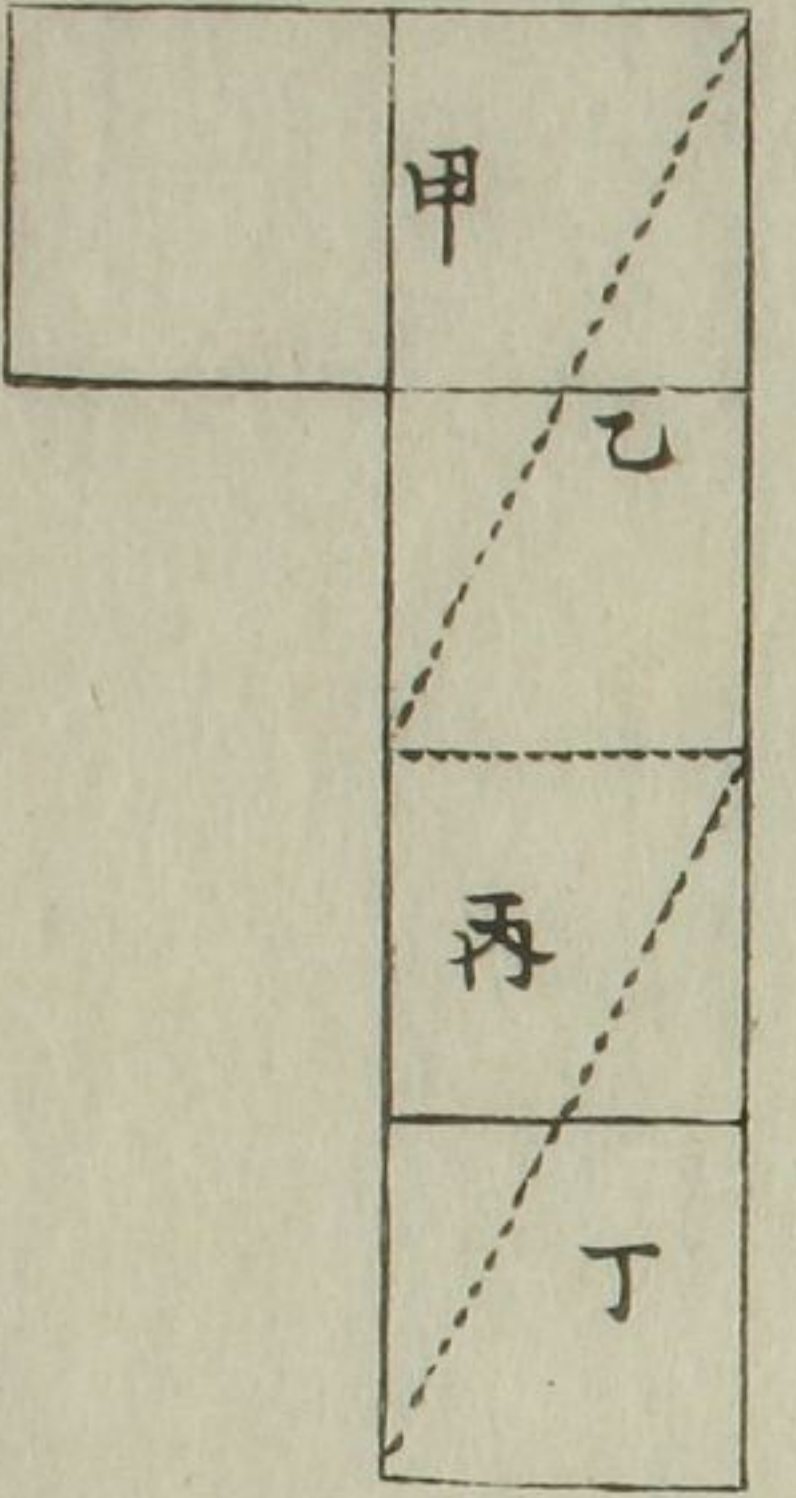
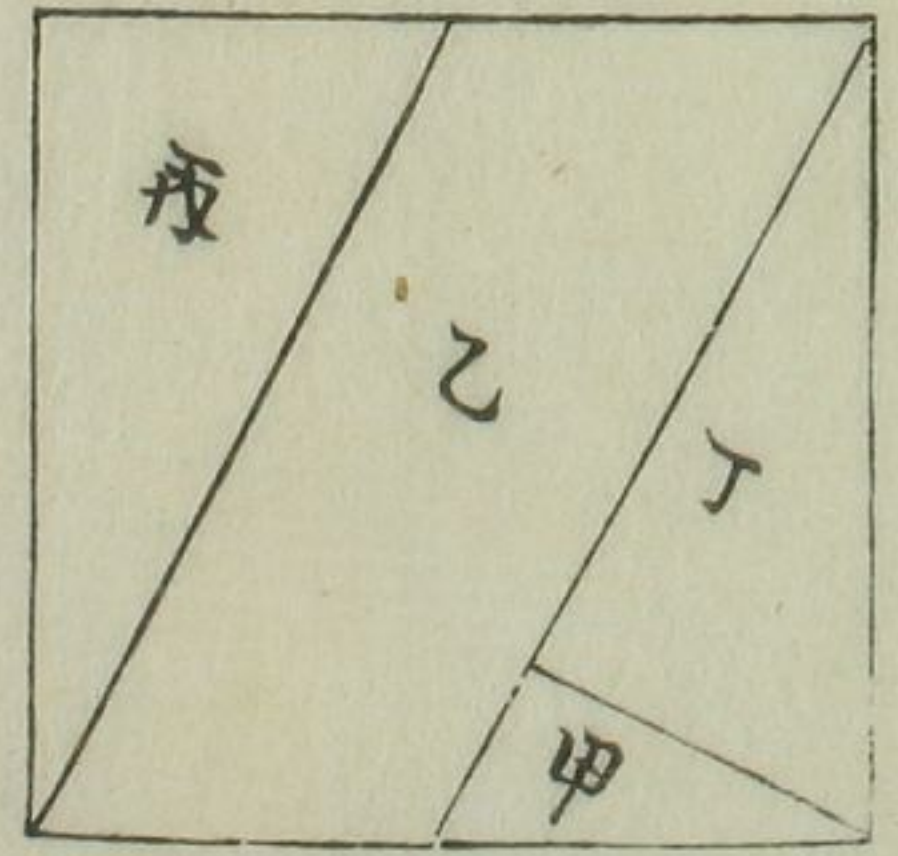


かゝのこくあるなるあり

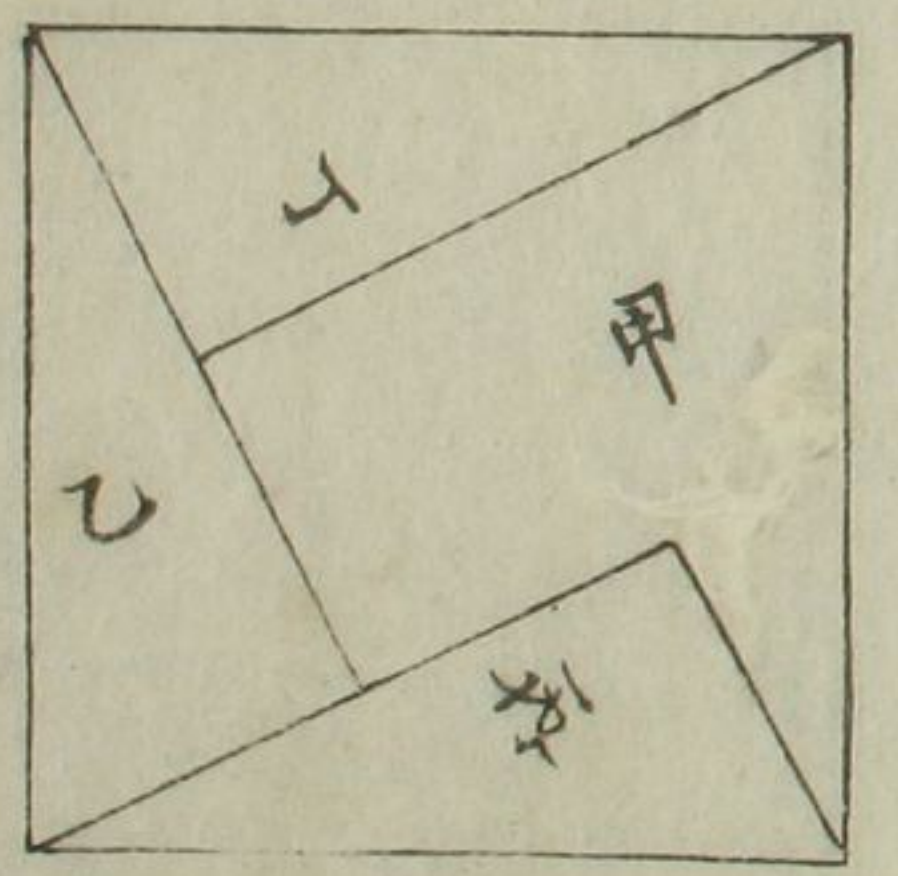
たとへば横又増倍を徹よあるる等と四方よあるる等切やうのこく



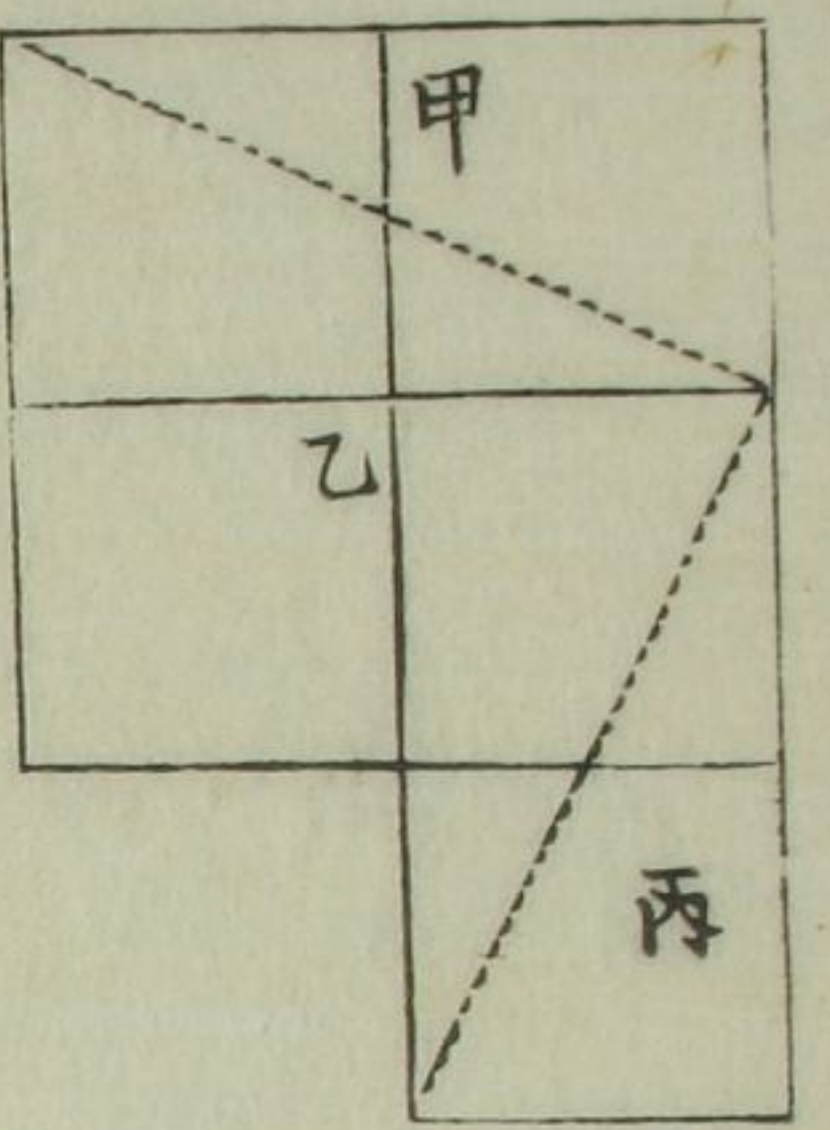
たの下の筋より切て下れ等のこくあるなる



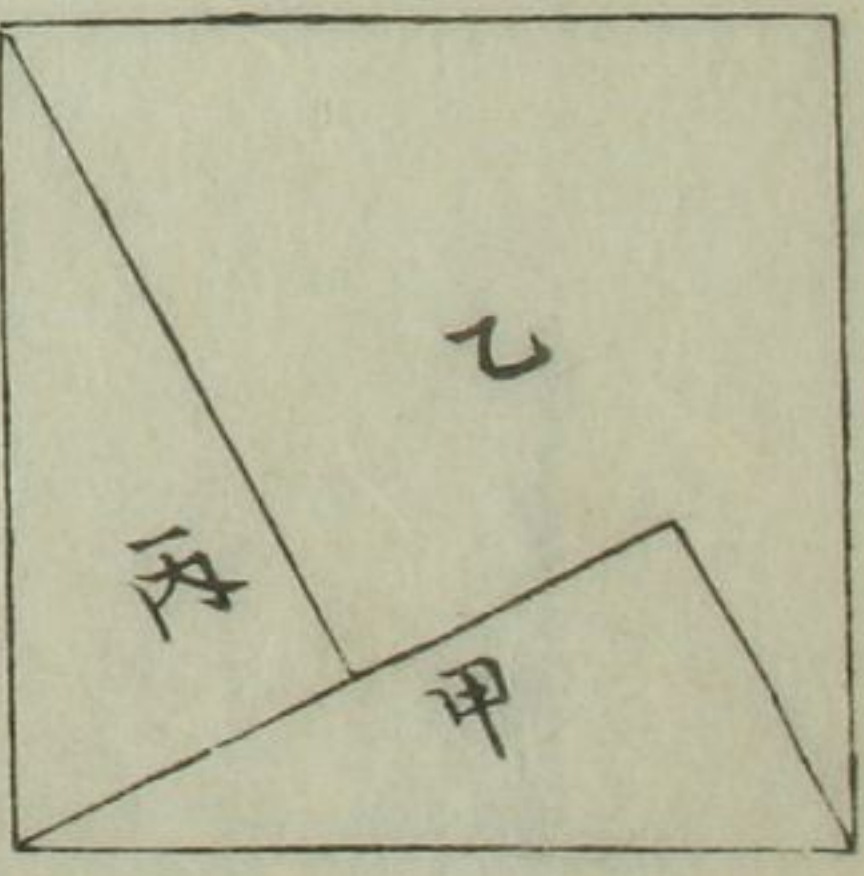
又たの寸より
 めいの紙の寸
 筋より切て
 下の等のこく
 あるなるあり



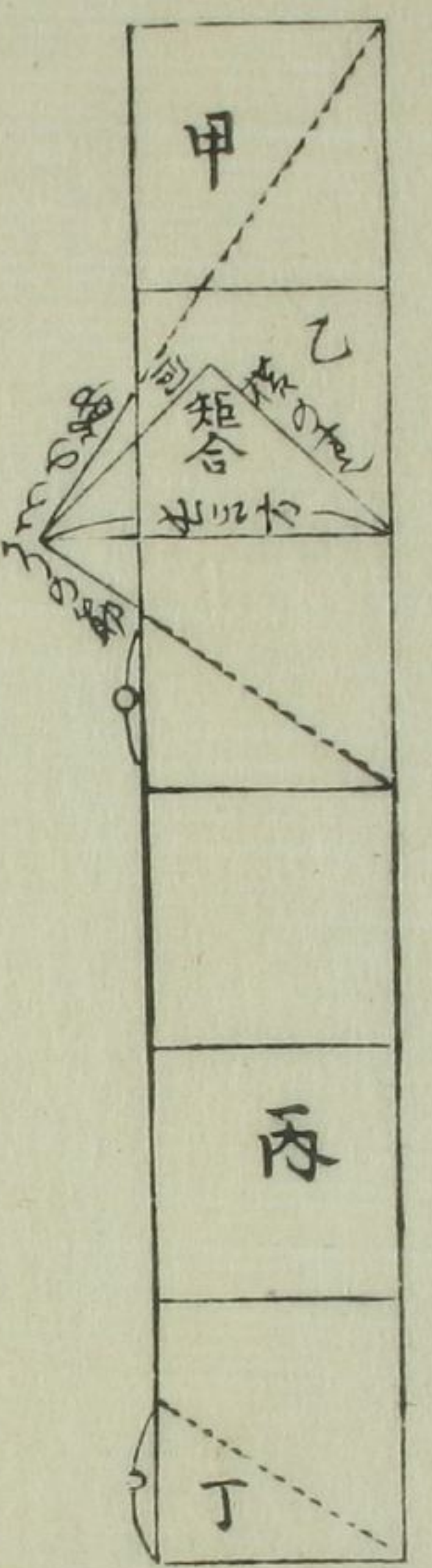
竹紙又紙



又その寸にてかくの
 大とき紙の下の筋
 より切て下り筋の
 ところありぬるあり

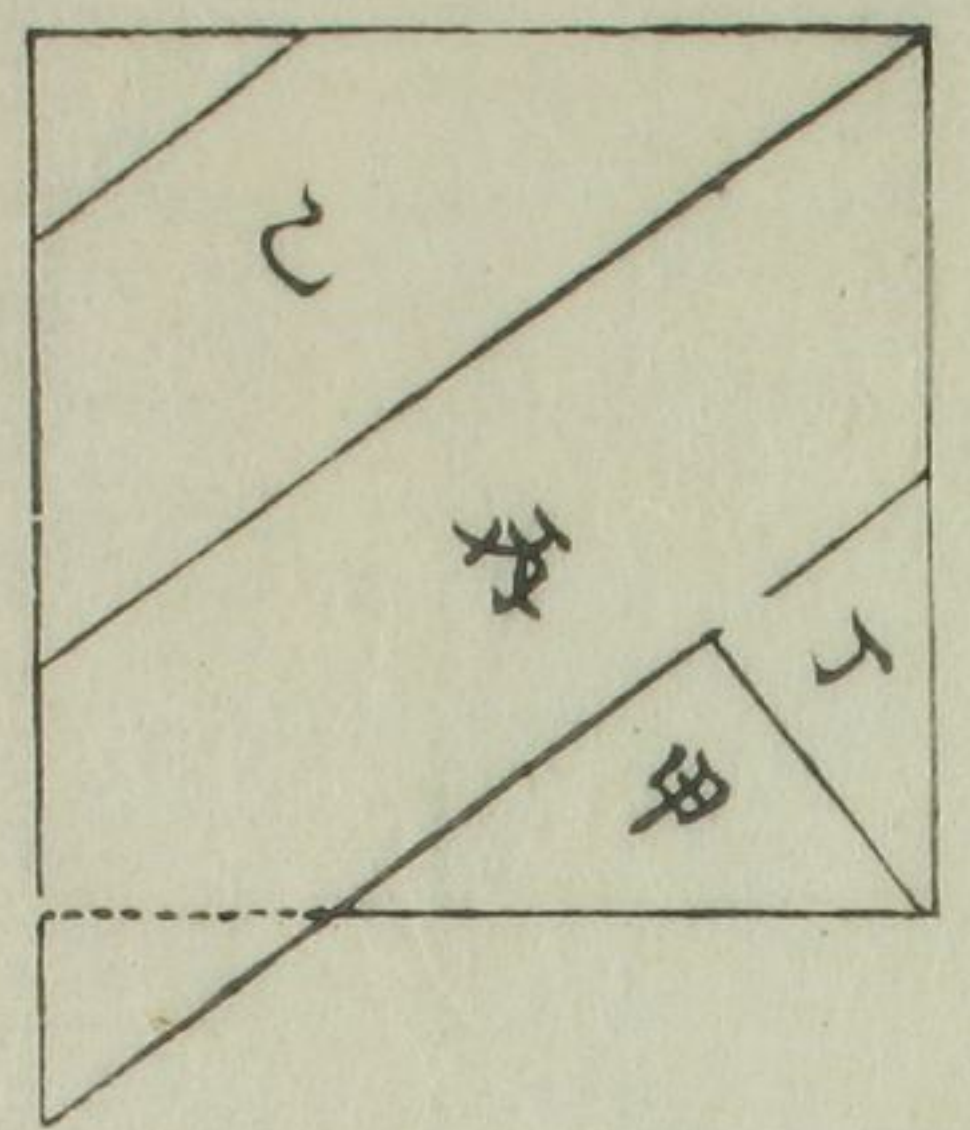


たとへば横の増倍と長ふきる紙と四方よむな紙をたりやうれ事

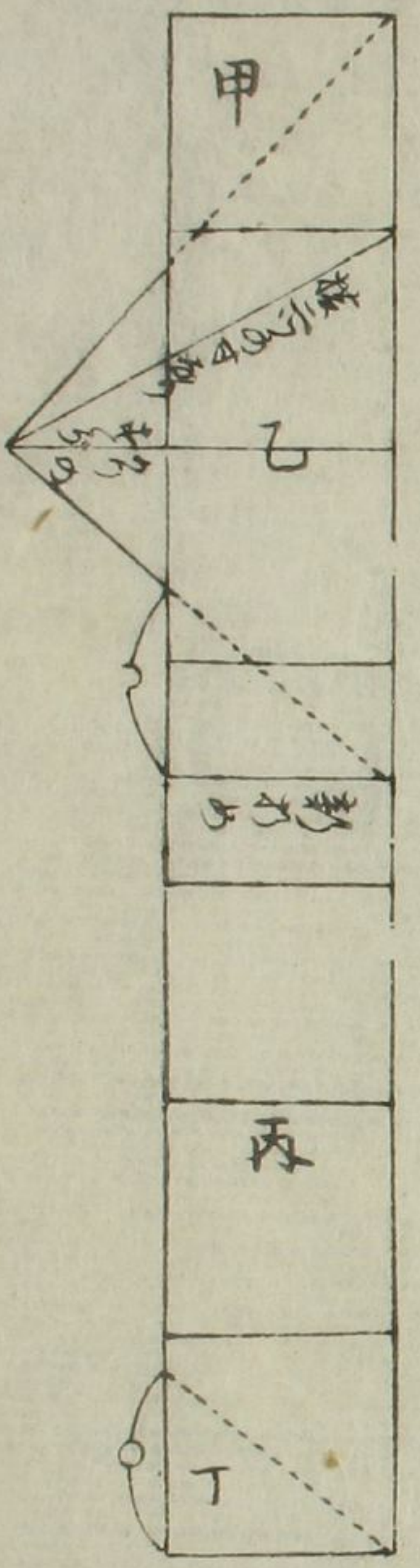


法曰は横の寸四方の
 紙とさうこがこま
 おてを長き方を

より三筋めへ筋のこく高てを尖う斜に下のこく切て紙
 上の丸の寸をわけて下の丸のこく高て又切てたのこくありて

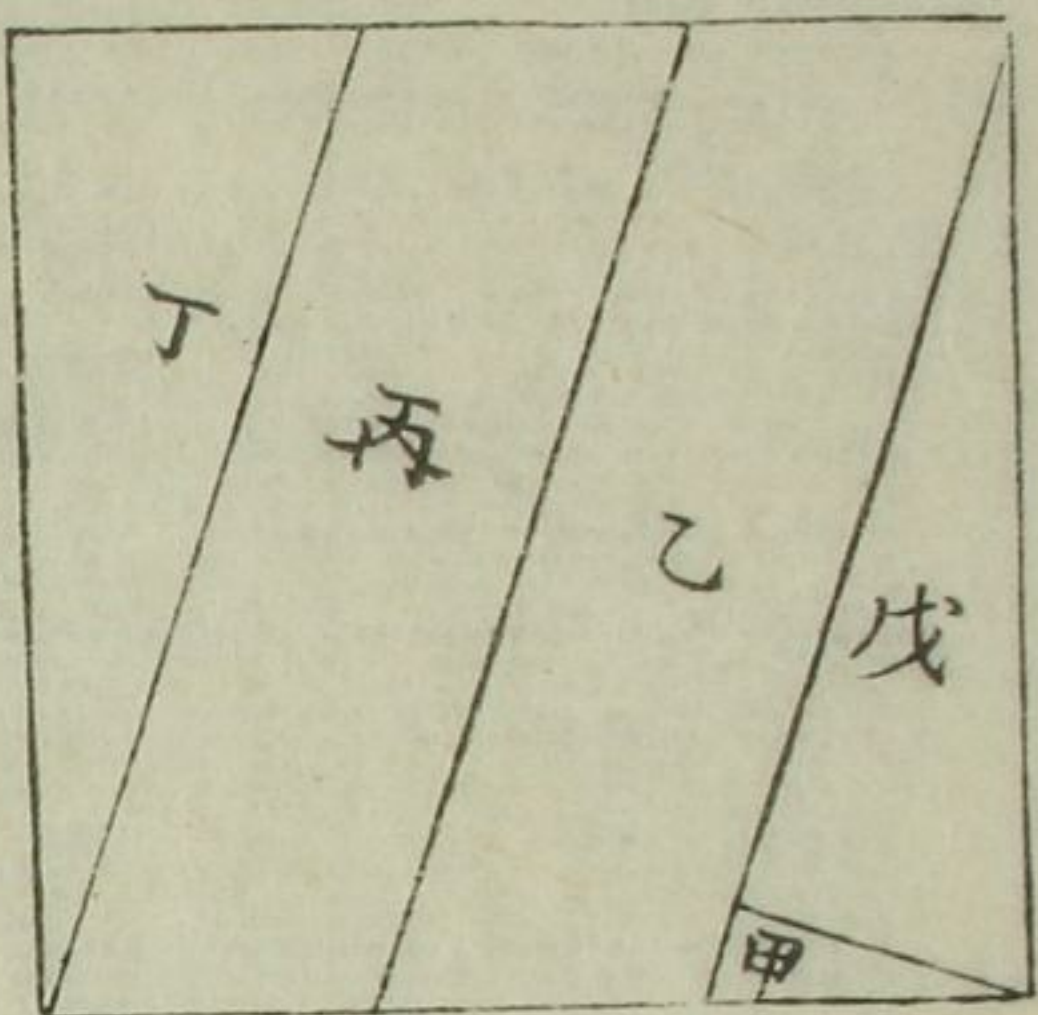


紙下のこくさうこくを切てこの次あり
 あるあり又さう三筋めの筋とたの方へ
 ながく川ありと最初筋のたの角と
 四筋めのたの角と三筋目の川ありの筋と
 三不矩を合さうよ切と仰

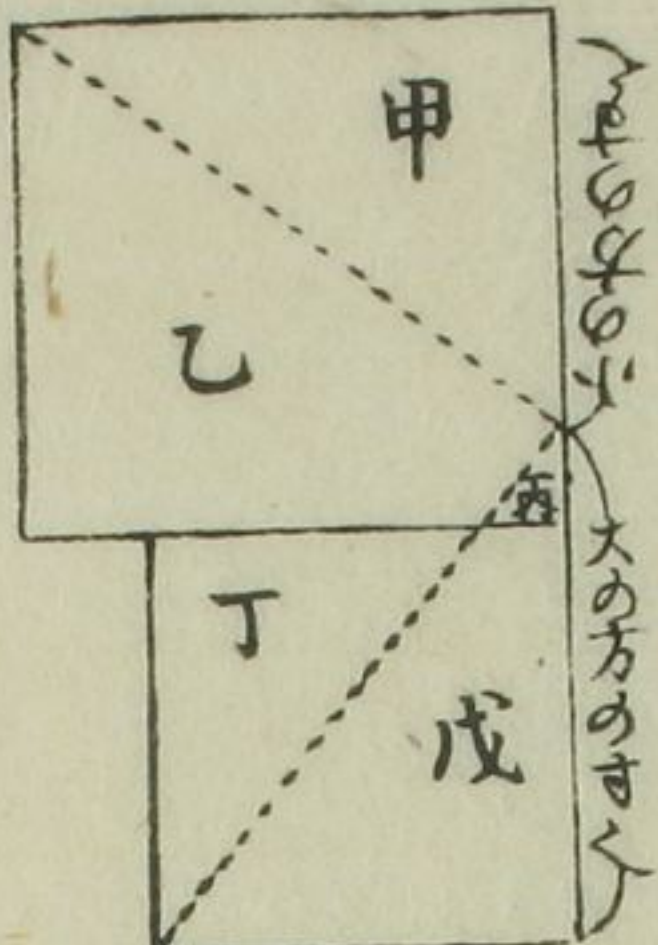


法曰は横の寸
 ニつよおつて
 おめのまらと

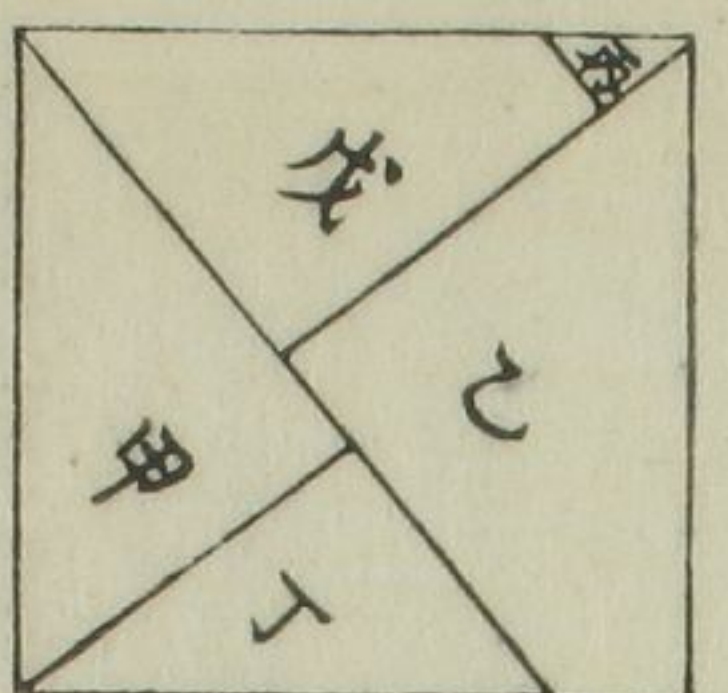
付板より二筋めたの角より三筋めを横にさうの寸を



たとへは何寸四方にても心持次第の紙を裁のまゝとく大小こぢ
らせて又四方より裁をきたらやうの事

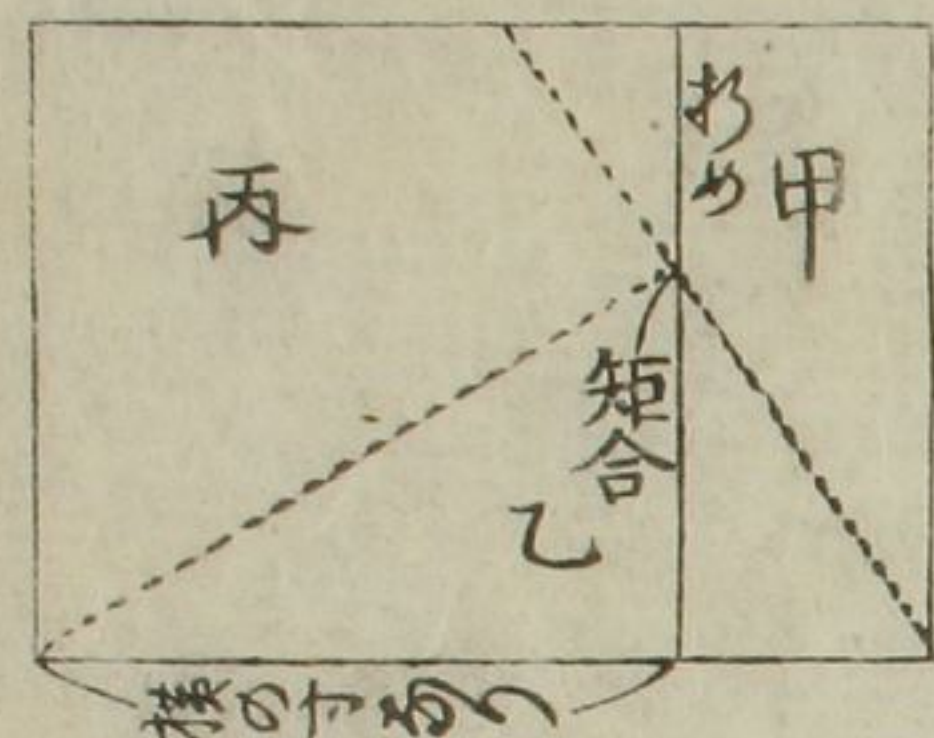


法曰小の方の寸をきてそれを上の方のたの角
より下の方へ裁のまゝ切てき置るふこの方
たの角と下の方のたの角と切てぬき置る

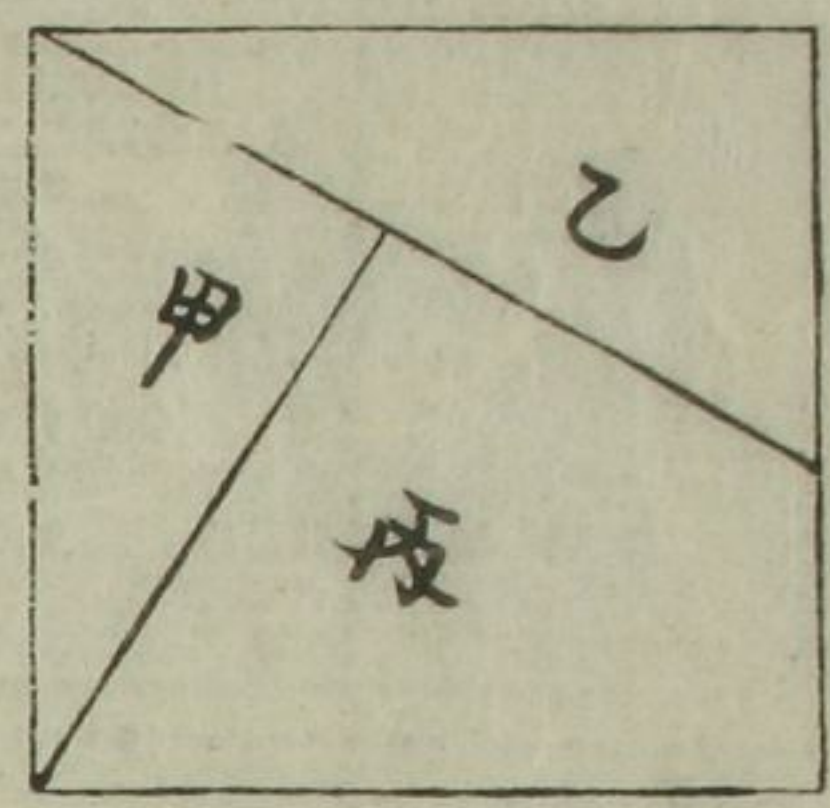


かゝのまゝあるぬき置る是即勾股舟合せて
弦舟とぬき置るなり

たとへは裁のまゝとく心持の直長短あるとりの紙を四方よ
り裁をきたらやうの事

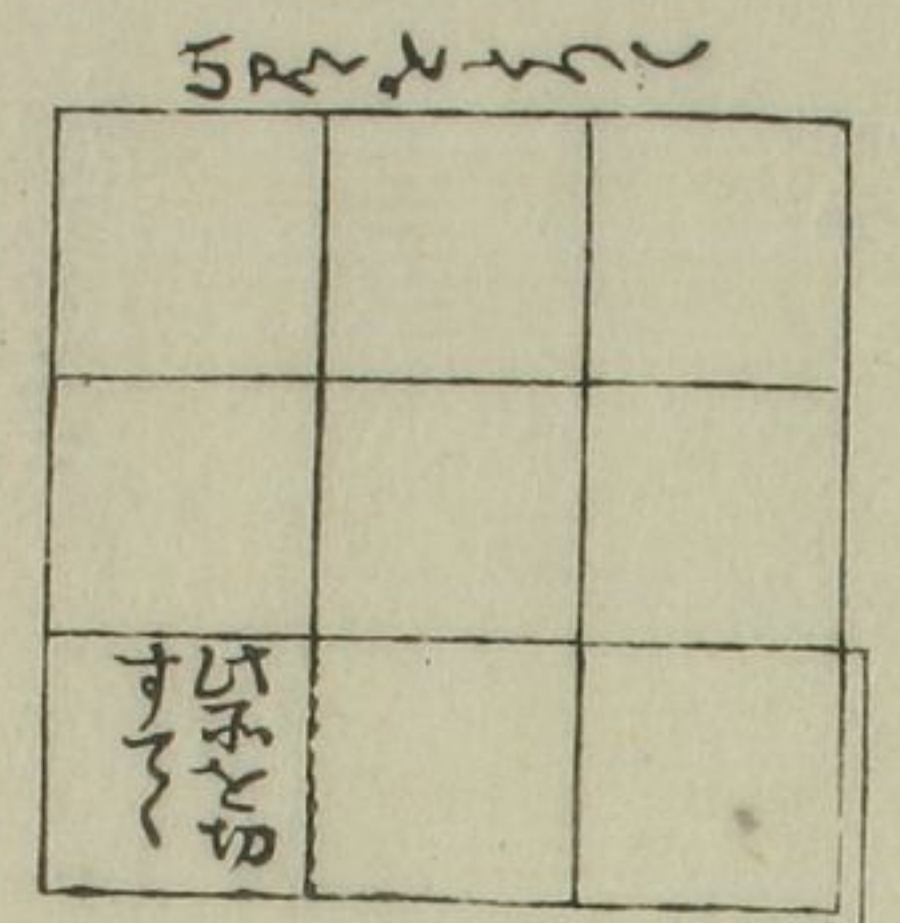


法曰横の寸をきてそれを下のたの角よりたの
方へ切てき置るまゝのまゝとくまゝおれぬ
付て板を筋と下のたの角と二ふ矩形
合はせよ切てたのまゝとくあるなり

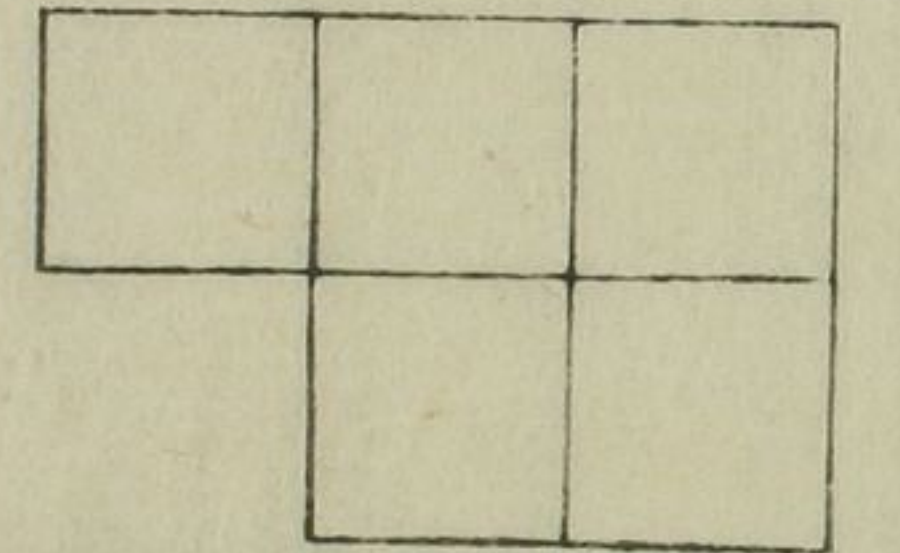


かくのこころなふありをよそけたら
 甲乙丙のあさりのいふまじり
 紙もも四方よあすとりまじり
 紙のこころ

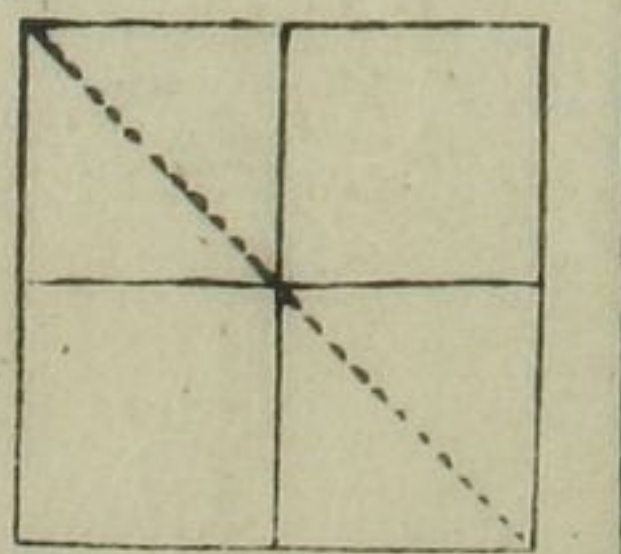
たとへ四方の紙をよのぶとく縦横ともいふよおても一角を
 切きて三つに切て又四方よあすすたらまじりの事
 け形むらうりおほく人のまじりといふもを比還仲仙が
 他とあて先板よさうまじりよ一刀よさうすたのじ



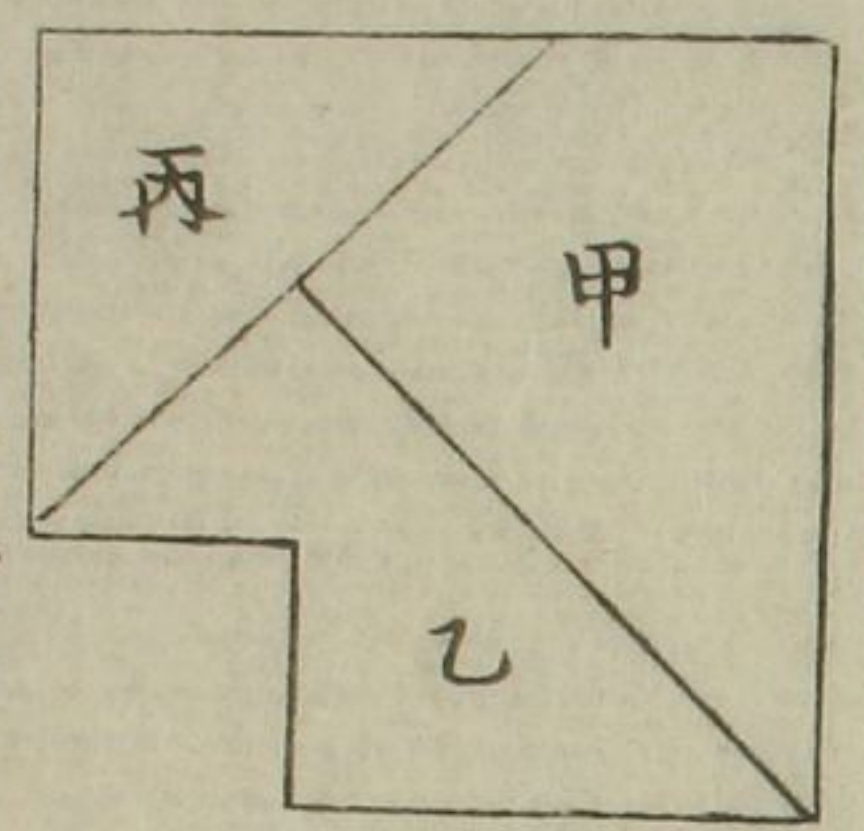
紙のこころ
 おてて
 打けて
 下のまじり
 どの



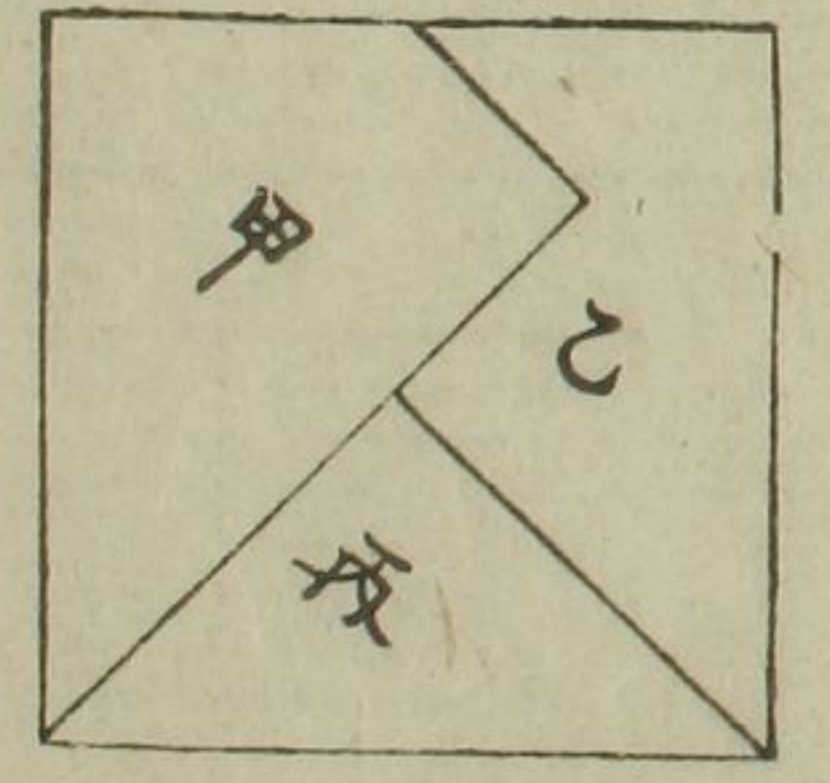
紙のこころ
 方とたのまじり
 方へおて下の
 まじり



こころ
 上のまじり
 方よ四枚
 をまじりて
 ありは四
 角のまじり
 してを紙
 のけを紙
 のまじり
 切あり



紙のこころ
 おてて
 打けて
 下のまじり
 どの



十九 紙のこころ

紙のこころありて先の人よ一ふよとをせしてまじりてまじり

又つて互に三つ引いて各々あると定て惣数といふ事也
たとは七つ引く引時三つあるといひ又つ引く引時二つ^{わま}引くと
いひ三つ引く引時三つあるといふ時の惣数何程と云ふ

答惣数百一者なりといふ

法曰七つ引く引時の竹^{ちま}り一つと十ありて四十八と云
又つ引く引時の竹り一つと二十つに^てして廿一と云三つ
引く引時の竹り三つと七十つに^てして百一と云三つ合て
二百一と云け四十八と拂ひ^て百一と云^て又
七つ引く引時^もも又つ引く引時^もも三つ引く引時^もも竹り
なりと云時のそれハ数よいと云又三つある竹りなりと

いふ時の百一といふべし

二十又三百十五減る事

たとへは又つ引く引時の三つある七つ引く引時の三つある九つ引
引時の又つあるといふ時

答惣数百十八

法曰又つ引く引時の三つと百二十六に^てして三百七十八と云
七つ引く引時の三つと二百廿五に^てして九百と云九つ引く引
竹り三つと二百八十に^てして四百と云三つ合て二百一
七十八と云是と三百十五に^てして百十八と云る也

廿一又百十三減る事

たよのさし引時の三つちまら九つは引時の又さし引るといふ時

答惣敷又十九

法曰さし引時の値り一つと三十二はさし引るとして百八と五
九つは引時の値り一つと元八つはさし引るとして百四十と五三
百合て
計百四十八は敷と六十三つ拂ひきては計又十九と知
た何れも先の人よとさし引るるの敷は減敷を倍りとさるがは

廿二 賞抽籤敷りどらぬ

改算記曰籤を賣文とてさし引るあまびとて是も賞時と瓜
をさし引籤二文つものねあまびを文と三つは引るの籤とてを文と
は引るたの籤とて三つは引る籤敷りど九百八十賞と引ると

いふ時を御とらるる先くりを多分ありて四百二十と極る
是何のいひぞや此ありちたの敷は狂題とて答あり敷八十
三件あり故は瓜の敷三百八十五よりさし引るは四百四十七と
いふは中の百二十とてさし引るより用わらぐあはよを餘の菓子
枕をのびる答あり敷はあまのことて三百八十四と四百四十
八ととらるの敷とてさし引るはさし引る答あり敷を倍人や倍とて
ついでとてあり又柴田理を馬の法行の門人のあまの細目と
るるふりせとてさし引る管の敷をさし引るは賞抽籤敷り事
かまのことて三本とて御をさし引るは倍とては二本とて
御何れ記とてさし引るはさし引る負敷とてこのむ

此方は茄子九とくらへ桃八と引瓜一如減の教といひて八九の三た
 答の教六十三件と得る也此の題負教とくして
 前測の依て答の教とくくめたるなり

假如有錢一貫文乃省欲買瓜茄桃九百六十箇瓜每
 七箇價卅七文茄每十箇價七文桃每九箇價八文須
 要使果及錢無奇問三色各幾何

瓜三十五箇 價百八十九文
 答曰茄二百五十箇 同百七十九文
 桃六百七十五箇 同六百廿四文

九三 奇偶算の事

たとふを教いらぬも先の人よ二あるをせりけれと一
 三又七九と又身よ二つ増よ奇の教より引時さゆるといひ
 又二四六八十と又身よ二つ増よ偶の教より引時二つ少と
 引時の教何程と問

答教三十二方一といふ

法曰丁の少とすの少ととておふと方ふてき
 あると引少と又とたふよ二つ合て得教とすの方の
 少と又と加へて二とある也又丁の方よ何よりなくすの
 方より何にあまり有附の何よりとたふよ二つ合て何よりと
 引へてあるなり又奇の方よあまりある偶の方ばよりよ

神代文部

及つといふ也或ハ又四の五蹟ある時ハ合掌の人たの
よとあがりけりいなりとうす~~た~~まじしうまふ人これと
そくたのよなる一といふ~~た~~たむるまじし甲

勘老清伽雙紙上巻終



